

戸建住宅におけるワークスペースの空間構成に関する研究  
ー COVID-19 によるワークスペースの需要拡大に注目してー

東京理科大学大学院  
工学研究科 建築学専攻  
坂牛研究室

4119020 岡野 麦穂

指導教員 主査 坂牛 卓



## **Abstract**

### **A STUDY OF WORKSPACE COMPOSITION IN DETACHED HOUSES**

**Taking advantage of the increasing demand for workspace due to COVID-19**

**Mugiho OKANO**

**The purpose of this study is to provide planning guidelines from the viewpoint of space composition and layout planning of workspaces, demand for which has increased due to COVID-19. As a result, the following conclusions can be drawn:.**

- 1. Single-type workspaces are usually 5 to 10 m<sup>2</sup> in size and , placed adjacent to the living room.**
- 2. As the floor space of workspaces increases, there are increasing number of workspaces that are adjacent to both living room and staircases.**
- 3. Workspaces adjacent to kitchen are often complex type and have a small floor area.**

目次	p. 004
梗概	p. 008
第1章 序論	p. 010
1. 1. 研究の目的と背景	
1. 2. 既往研究	
1. 3. 研究対象	
第2章 分析方法	p. 015
2. 1. 分析方法	
2. 2. ワークスペースのタイプの調査	
2. 3. ワークスペースの床面積の算出	
2. 4. ワークスペースの隣接空間の調査	
第3章 分析結果	p. 020
3. 1. ワークスペースのタイプの調査	
3. 2. ワークスペースの床面積の算出	
3. 3. ワークスペースの隣接空間の調査	
第4章 結論	p. 027

参考文献

p. 29

謝辞

p. 30

データシート

p. 33



梗概

# 戸建住宅におけるワークスペースの空間構成に関する研究 —COVID-19によるワークスペースの需要拡大に注目して—

坂牛研究室

4119020 岡野 麦穂

## 1. 研究の背景と目的

COVID-19の蔓延により、リモートワークが全国で普及し、住宅内のワークスペースの需要が高まった。それに対して住宅メーカーは様々なワークスペースを提案している。

一方、総務省の2021年に実施された調査<sup>註1)</sup>より、テレワーク普及の理由としては、「通勤時間の削減」や「好きな場所で作業できる」などが上位にあげられ、COVID-19に直接的に関連する「病気の予防になる」は、全体の32.9%と下位にあげられる。したがって、ワークスペースを含む戸建住宅の需要は、COVID-19終息後も低下することはないと考えられる。

そこで本論では現在提案されているワークスペースの空間構成や配置計画を調査することによって、これからの戸建住宅設計におけるワークスペースの配置計画や広さに関する計画指針を示すことを目的とする。

## 2. 既往研究

テレワーク実施者に対するワークスペースの実態調査に関する論文<sup>註2)</sup>では、住宅における家族構成に対応して、ワークスペースがどのような形態で利用されているのかを明らかにしているが、ワークスペースの空間構成に関して扱ったものはない。

## 3. 研究対象

住宅メーカー7社（積水ハイム、旭化成ホームズ、ミサワホーム、トヨタホーム、住友林業、ダイワハウス、スウェーデンハウス）のワークスペースを含む戸建住宅213戸の中の、ワークスペース253箇所（一住戸に複数のワークスペースを含む場合を考慮する）を研究対象とする。

## 4. 分析方法

研究対象のワークスペースについて、「1. ワークスペースのタイプの調査」「2. ワークスペースの床面積の算出」「3. ワークスペースの隣接空間の調査」の3つの指標を用いて調査分析を行う。

## 4. 1. ワークスペースのタイプの調査

はじめに、「隣接する空間から開口部によって間仕切られ、仕事や勉強のみを行うことが想定されている空間」を単一型ワークスペースと定義し、その条件を満たさないものを複合型ワークスペースと定義する。次に、ワークスペースがどちらに該当するかを調査する。（図2）

## 4. 2. ワークスペースの床面積の算出

対象住戸の平面図から、ワークスペースの床面積を算出する。図面上に床面積表示がある場合はその数値を利用する。また、複合型ワークスペースで、かつワークスペースのみの床面積表示がない場合は、その居室の床面積を利用する。ただし、ワークスペース自体やワークスペースを内包している室全体の床面積表示がないものに関しては本分析の対象から除く。（図2）

## 4. 3. 隣接空間の機能の調査

はじめに、「他の機能および空間を介さずにワークスペースから直接アクセスできる機能および空間」を隣接空間と定義する。その条件のもと、ワークスペースの隣接空間の機能を調査する。

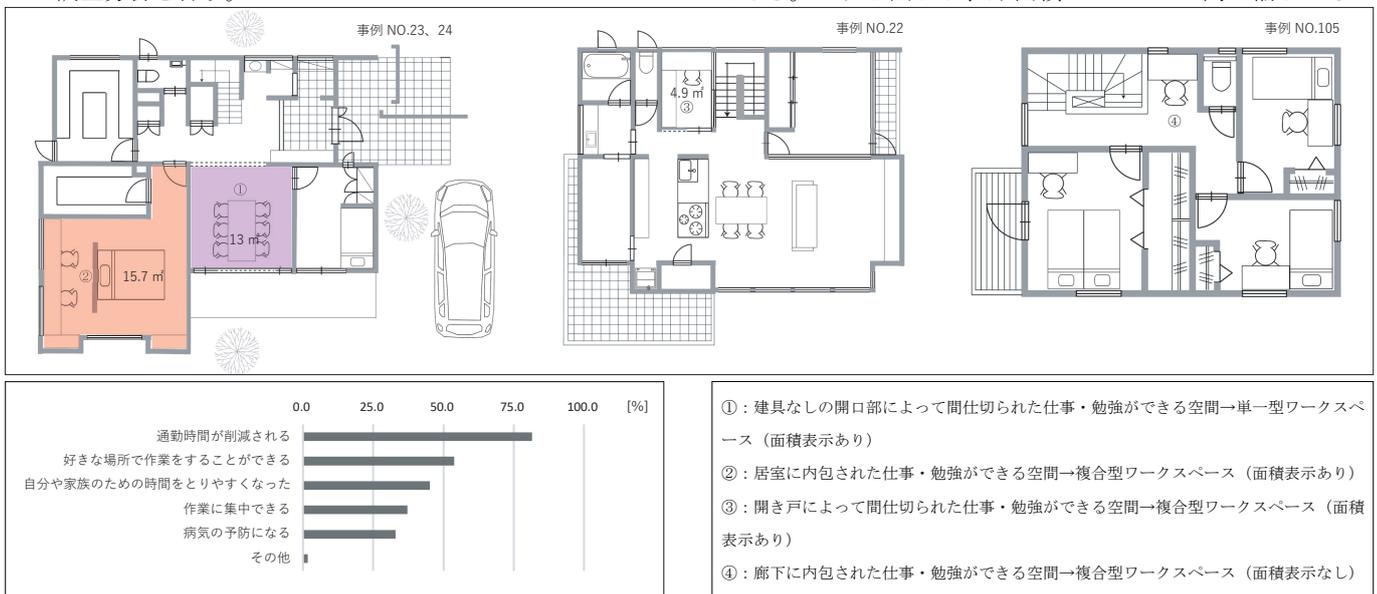
## 5. 分析結果

### 5. 1. ワークスペースのタイプの調査

分析の結果、ワークスペース253箇所の内、単一型ワークスペースが73箇所、複合型ワークスペースが180箇所となった。

### 5. 2. ワークスペースの床面積の算出

分析したワークスペースを面積が小さいものを横軸として並べたものを図3～5に示す。図3は対象ワークスペースの内、[4. 研究方法]で述べている面積計算を行うことができる条件を満たすもの（全245箇所）の床面積を示したものである。図4は、単一型ワークスペースの床面積を示したものであり、図5は複合型ワークスペースの床面積を示したものである。これら図より、床面積1.6～16㎡の間で偏りが無い



ことが判明した。床面積が16㎡～のものは、図6より、居間に内包された複合型ワークスペースが集中しているためにこのような結果となったと考えられる。

### 5. 3. 隣接空間の機能の調査

隣接空間の機能の調査結果を表1～3に示す。表より、居室、階段に隣接するワークスペースがそれぞれ49%、48%となり最も多かった。室であるワークスペースでは、居間と隣接しているワークスペースが45%と最も多かった。このことから、集中できる環境を整えながらも、家事や子育てと並行してワークスペースを利用することを考慮して計画されたものが多いと考えられる。<sup>註3)</sup> また、室でないワークスペースにおいては、階段、居室に隣接するワークスペースがそれぞれ46%、45%となり最も多かった。このことから、住戸内において家族が共同で利用する目的として、主な動線と一体で計画されており、かつ居室からのアクセス性を考慮した計画がされているものが多いと考えられる。<sup>註4)</sup> バルコニーが隣接空間であるワークスペースは、単一型、複合型に共通して、分析したワークスペースの全体数の割合に対して大きな差がないことがわかる。このことから、屋内と屋外とで環境の変化を容易に図ることができることを考慮して、長時間のワークスペースでの作業に対応していると考えられる。<sup>註5)</sup>

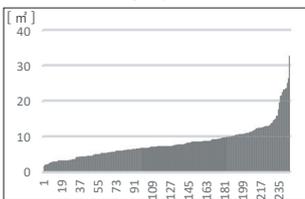
次に、ワークスペースの床面積と隣接空間の二項目に注目する。図6より、居室、階段、バルコニーが隣接空間であるワークスペースは、その床面積が大きいほど増加することが判明した。キッチンが隣接空間であるワークスペースは、その床面積が2～5㎡のものに集中していることが判明した。廊下が隣接空間であるワークスペースは、その床面積が4～10㎡のものに集中していることが判明した。

### 6. 結論

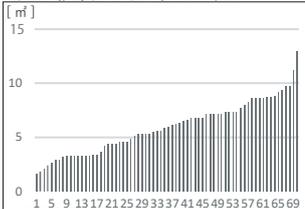
図6より、単一型ワークスペースでは、居間と隣接してお

り、床面積が10㎡以下のものが多く見られることが判明した。室として集中できる環境を整えながらも、家事や子育てと並行して仕事を行うことを考慮して計画されたワークスペースが多いためにこのような結果になったと考えられる。また、ワークスペースの床面積が大きくなるのに伴って、複合型ワークスペースが増加し、かつ居室と階段が隣接空間として計画されているものが増える傾向がある。このことから、面積を大きくとりつつ、階段、および各居室から直接アクセスでき、家族共同で利用されるワークスペースが多いことが判明した。さらにキッチンと隣接するワークスペースでは、家事動線を考慮して、複合型かつ面積の小さいものが多いことが判明した。

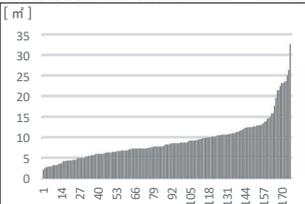
これら得られた結論より、住宅メーカーの戸建住宅におけるワークスペースの計画の傾向が明らかとなった。また、ワークスペースを含む戸建住宅設計を行う上での、ワークスペースの空間構成や配置計画について指針を示した。



▲図3 床面積算出結果(全体)



▲図4 床面積算出結果(単一型WS)



▲図5 床面積算出結果(複合型WS)

▼表1 隣接空間の調査結果(全体)

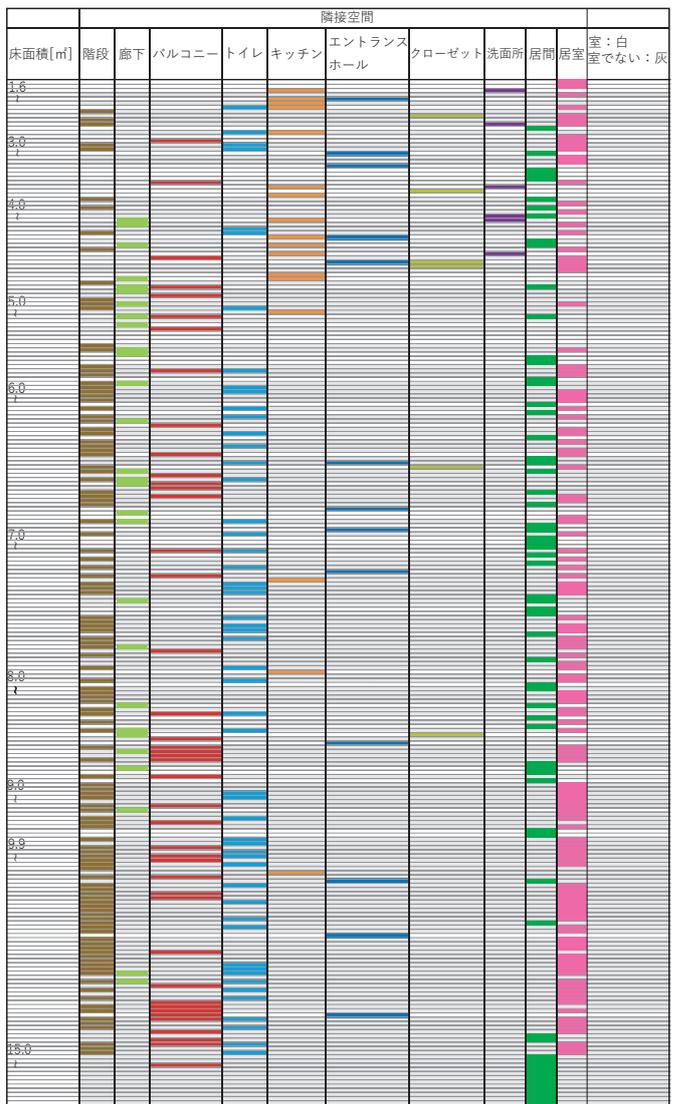
隣接空間	該当数	割合(%)
居室(寝室等)	126	49
階段	122	48
居間(リビング、ダイニング)	65	25
トイレ	54	21
バルコニー	44	17
廊下	23	9
キッチン	16	6
エントランスホール	13	5
クローゼット	7	2
洗面所	6	2

▼表2 隣接空間の調査結果(単一型WS)

隣接空間	該当数	割合(%)
居間(リビング、ダイニング)	33	45
居室(寝室等)	12	16
キッチン	12	16
エントランスホール	11	15
バルコニー	8	10
廊下	8	10
階段	5	6
クローゼット	5	6
洗面所	4	5
トイレ	1	1

▼表3 隣接空間の調査結果(複合型WS)

隣接空間	該当数	割合(%)
階段	117	46
居室(寝室等)	116	45
トイレ	53	21
バルコニー	36	14
居間(リビング、ダイニング)	31	12
廊下	21	8
キッチン	5	2
エントランスホール	2	1
クローゼット	2	1
洗面所	2	1



横軸をワークスペースに対する隣接空間、縦軸はワークスペースの室面積を昇順に示している。該当する隣接空間は着色しており、複合型ワークスペースに該当するものに着色をした。

▲図6 各分析項目調査結果

脚注： 註1) 総務省 (2021) 「ウィズコロナにおけるデジタル活用の実態と利用者意識の変化に関する調査研究」テレワークの利点 註2) 宮原 真美子 他 「在宅テレワーク時のワークスペース環境に関する研究-緊急事態宣言下におけるアンケート調査から-」『日本建築学会計画系論文集』 2021年 86巻 790号 pp2541-2548 註3) 参考文献1) p13「家族の様子を感じながらも、オフィスと同じように集中して仕事に取り組みます。」、参考文献2) p30「隣接するバルコニーで気軽に気分転換。」 註4) 参考文献3) p7「2階のホームコモンズはどの居室からも近いみんなの共有スペースです。」 註5) 参考文献4) p21「仕事に区切りがいたらすぐ隣のベンダラに出て一休み。」

参考文献： 1. トヨタホーム 住宅カタログ 『SINCE with R (シンセ・ウィズアール)』 2. 住友林業 住宅カタログ 『New everyday』 3. ミサワホーム 住宅カタログ 『PRIME SMART (プライム スマート)』 4. 旭化成ホームズ 住宅カタログ 『One Fitto』

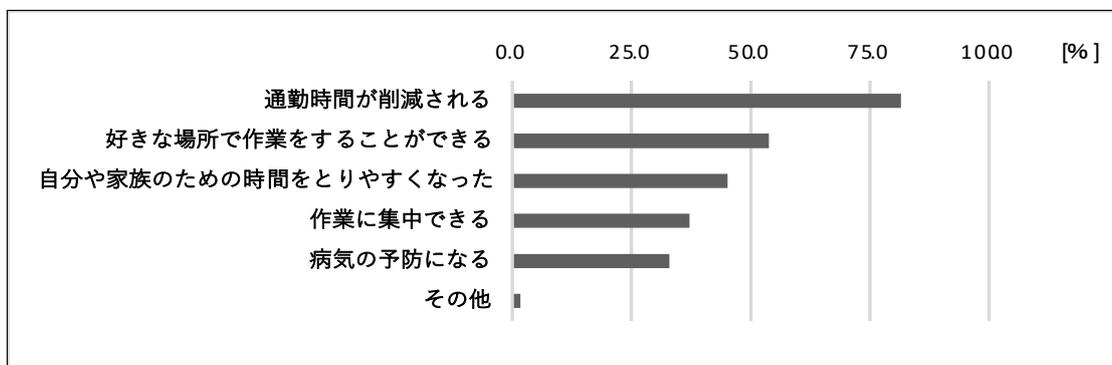
第 1 章  
序論

## 1. 1. 研究の背景と目的

COVID-19 の蔓延により、リモートワークが全国で普及し、住宅内のワークスペースの需要が高まった。それに対して住宅メーカーは様々なワークスペースを提案している。

一方、総務省の 2021 年に実施された調査<sup>註1)</sup> より、テレワーク普及の理由としては、「通勤時間の削減」や「好きな場所で作業できる」などが上位にあげられ、COVID-19 に直接的に関連する「病気の予防になる」は、全体の 32.9% と下位にあげられる。したがって、ワークスペースを含む戸建住宅の需要は、COVID-19 終息後も低下することはないと考えられる。

そこで本論では現在提案されているワークスペースの空間構成や配置計画を調査することによって、これからの戸建住宅設計におけるワークスペースの配置計画や広さに関する計画指針を示すことを目的とする。



### 【脚注】

1) 参考文献 1

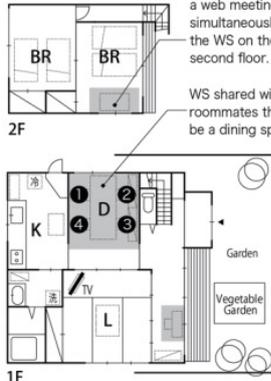
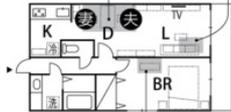
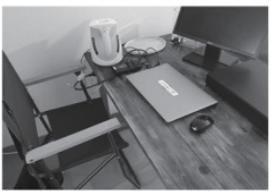
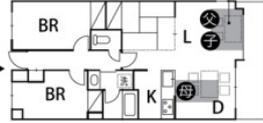
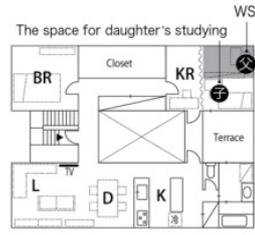
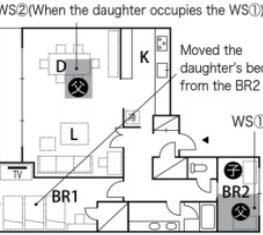
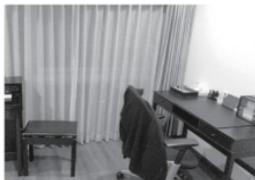
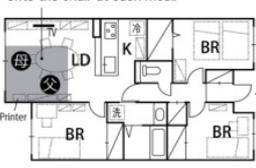
## 1. 2. 既往研究

緊急事態宣言の発出に伴い在宅勤務を強いられた就労者を対象に、在宅テレワーク時のワークスペースの実態を報告した論文<sup>註2)</sup>が既往研究としてあげられる。この論文では、単独世帯と夫婦のみから成る世帯では、リビングルーム、ダイニングルームにWSを確保した世帯が、半数を超えた。一方、夫婦と子供から成る世帯では、WSを確保した場所として、リビングルームやダイニングルームが約1/3を占めるが、書斎・自室、子供部屋、複数のWSを使い分ける事例も多く、単独世帯や夫婦のみから成る世帯と比べて、WSを確保するだけの間取りにゆとりがあることが判明している。WSがリビングルームやダイニングルームなどの生活空間から独立していると回答した事例の中には、寝室や子供部屋などの部屋と兼用しているものもあり、仕事専用の部屋を確保することが困難な実態を把握した。一方、子育て世帯では、物理的にスペースが足りないという間取りの制約がない場合も、育児との両立のため意図的にリビングやダイニングルームをWSとしているものがあつた。また、自宅に複数の就労者がいる場合、それぞれのWSを確保するのではなく、執務空間とオンライン会議のための空間といった仕事の内容によって使い分けていることを把握した。リビングルームをWSとしている場合、オンライン会議時の背景に部屋の中が見えない工夫を要することや、食事や団欒の時の書類や機器類の収納場所がないことなど具体的な課題が指摘された。このように感染リスク回避のための試みとして後押しされた在宅勤務では、自身が置かれているライフステージの影響も大きく、今後の在宅テレワークの環境整備では議論が必要である。

このような結果が、この論文では言及されているが、ワークスペースの空間構成に関しては言及されていない。よって、ワークスペースの利用実態のみならず、ワークスペースがどのように計画されるかに視点を置いて本研究では研究を行う。

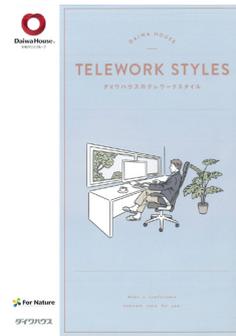
### 【脚注】

2) 参考文献 2

<p><b>① 20s, Single-person, 25 m<sup>2</sup></b></p> <p>At every meal, put away the books, documents, and PC onto the shelf to secure enough space on the desk.</p>  <p>Loft</p> <p>Bought a new desk which replaced the coffee table. Eating, studying, and working at the same desk.</p> 	<p><b>② 20s, 4 Roommates, 80 m<sup>2</sup></b></p> <p>When roommates have a web meeting simultaneously, move to the WS on the porch or second floor.</p> <p>WS shared with roommates that used to be a dining space.</p>  <p>2F</p> <p>1F</p> <p>Garden</p> <p>Vegetable Garden</p>  <p>Workspace on the porch</p>  <p>Workspace in the dining room</p>	<p><b>③ 30s, Couple only, 50 m<sup>2</sup></b></p> <p>Web meeting space in front of the wall not to show the living environment.</p> <p>Working and dining at the same dining table shared with the husband.</p>  <p>Temporary WS with using an ironing board as a desk during a web meeting.</p> 	
<p><b>④ 30s, a family of 3, 51 m<sup>2</sup></b></p> <p>Moved the sofa from the living room to the dining space to sit together with the daughter.</p>  <p>When having a web meeting, I use the bathroom to avoid being interrupted by the daughter.</p> 	<p><b>⑤ 30s, a family of 3, 80 m<sup>2</sup></b></p> <p>Using the dining table that is no longer used, as a work desk. The daughter is sitting next to the husband and watching Youtube.</p>  	<p><b>⑥ 30s, a family of 3, 54 m<sup>2</sup></b></p>  <p>The father works standing up in the kitchen to take care of a 2-year-old son moving around the room to room.</p> <p>※ No photo because of submitted the workspace photo with confidential.</p>	<p><b>⑦ 30s, a family of 3, 43 m<sup>2</sup></b></p> <p>Verandah with a wooden deck by DIY, used as a part of living space such as a playground for children.</p>  <p>DIY desk. WS in the verandah where is the only space to avoid noise during a web meeting</p> 
<p><b>⑧ 40s, a family of 3, 120 m<sup>2</sup></b></p> <p>The space for daughter's studying</p>  <p>WS</p> 	<p><b>⑨ 30s, a family of 3, 115 m<sup>2</sup></b></p> <p>WS②(When the daughter occupies the WS①)</p> <p>Moved the daughter's bed from the BR2</p>  <p>WS①</p> 	<p><b>⑩ 50s, a family of 4, 70 m<sup>2</sup></b></p> <p>Clear the work supplies on the table onto the chair at each meal.</p>  <p>Printer</p> 	<p><b>⑪ 50s, a family of 3, 100 m<sup>2</sup></b></p>  <p>WS</p> 
<p>Legend   L : Living room, D : Dining room, K : Kitchen, BR : Bedroom, KR : Children' room,  Workspace  Father  Mother  Child  0 1 5m</p>			

### 1. 3. 研究対象

住宅メーカー7社（積水ハイム、旭化成ホームズ、ミサワホーム、トヨタホーム、住友林業、ダイワハウス、スウェーデンハウス）のワークスペースを含む戸建住宅 213 戸の中の、ワークスペース 253 箇所（一住戸に複数のワークスペースを含む場合を考慮する）を研究対象とする。



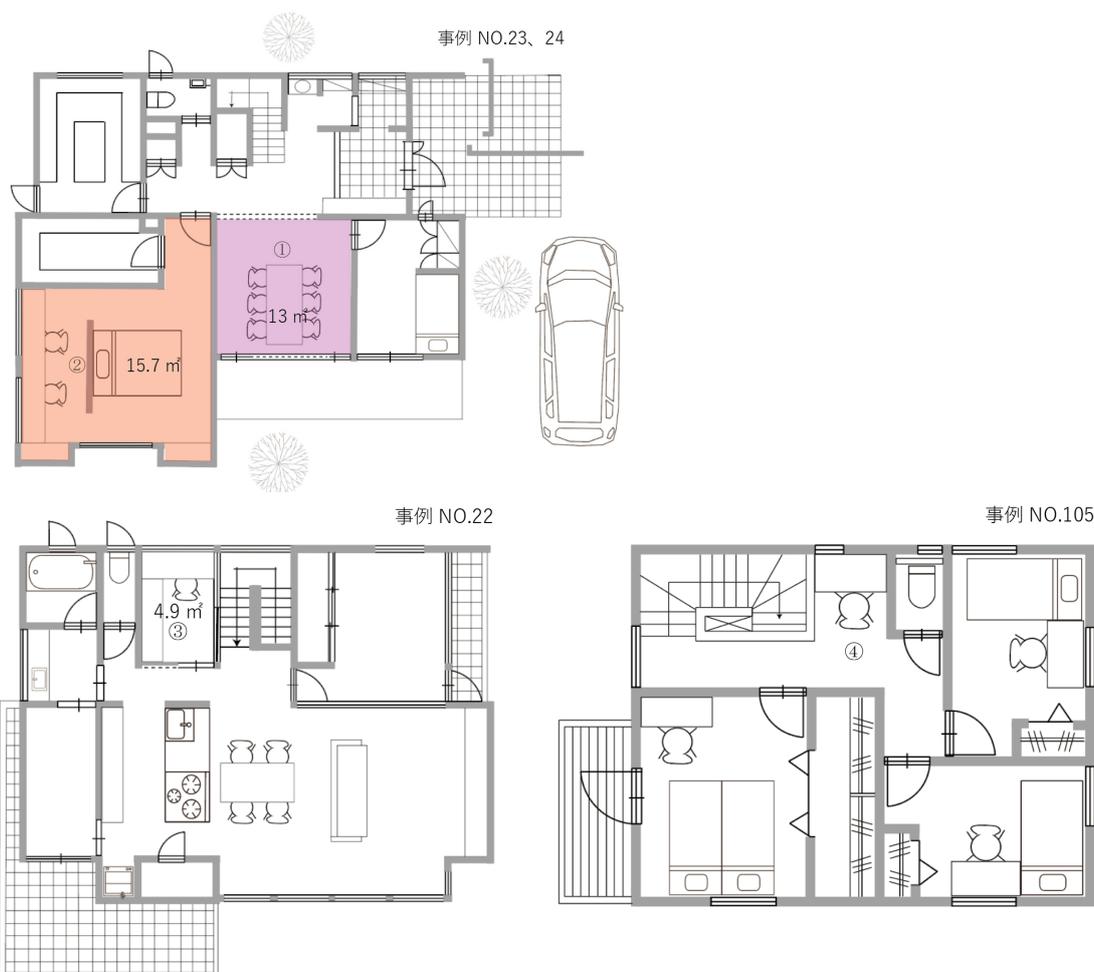
第2章  
分析方法

## 2. 1. 分析方法

研究対象のワークスペースについて、「1. ワークスペースのタイプの調査」「2. ワークスペースの床面積の算出」「3. ワークスペースの隣接空間の調査」の3つの指標を用いて調査分析を行う。

## 2. 2. ワークスペースのタイプの調査

はじめに、「隣接する空間から開口部によって間仕切られ、仕事や勉強のみを行うことが想定されている空間」を単一型ワークスペースと定義し、その条件を満たさないものを複合型ワークスペースと定義する。次に、ワークスペースがどちらに該当するかを調査する。



- ①：建具なしの開口部によって間仕切られた仕事・勉強ができる空間→単一型ワークスペース（面積表示あり）
- ②：居室に内包された仕事・勉強ができる空間→複合型ワークスペース（面積表示あり）
- ③：開き戸によって間仕切られた仕事・勉強ができる空間→複合型ワークスペース（面積表示あり）
- ④：廊下に内包された仕事・勉強ができる空間→複合型ワークスペース（面積表示なし）

### 2.3. ワークスペースの床面積の算出

対象住戸の平面図から、ワークスペースの床面積を算出する。図面上に床面積表示がある場合はその数値を利用する。また、複合型ワークスペースで、かつワークスペースのみの床面積表示がない場合は、その居室の床面積を利用する。ただし、ワークスペース自体やワークスペースを内包している室全体の床面積表示がないものに関しては本分析の対象から除く。

ワークスペースが単一型ワークスペースであり、面積表示がないものであっても、その建築面積から、ワークスペースの床面積が算出できる場合は、面積の算出を行う。

また、ワークスペースの床面積表示が「畳」で記されているものに関しては、その数値に対して1.62倍をし、単位を[m<sup>2</sup>]として分析を行う。

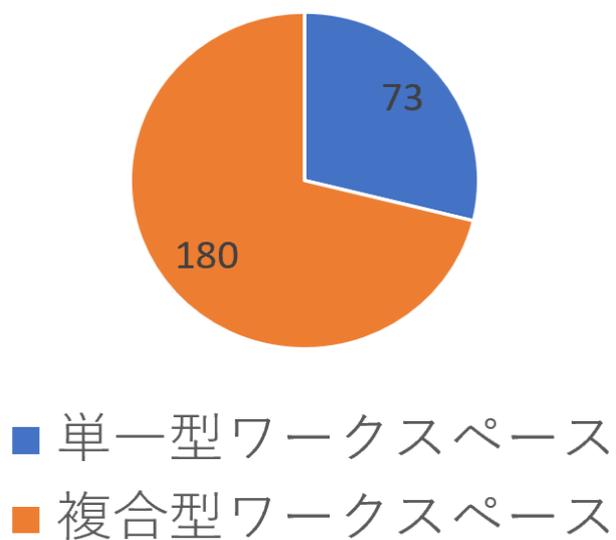
#### 2.4. ワークスペースの隣接空間

はじめに、「他の機能および空間を介さずにワークスペースから直接アクセスできる機能および空間」を隣接空間と定義する。その条件のもと、ワークスペースの隣接空間の機能を調査する。

第3章  
分析結果

### 3.1. ワークスペースのタイプの調査

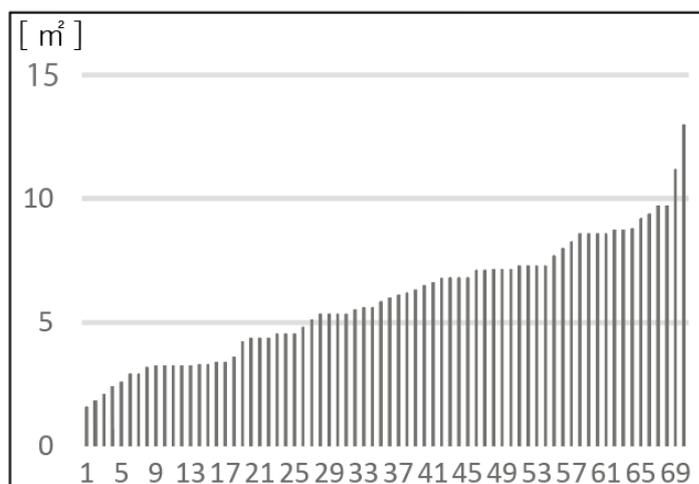
分析の結果、ワークスペース 253 箇所の内、単一型ワークスペースが 73 箇所、複合型ワークスペースが 180 箇所となった。



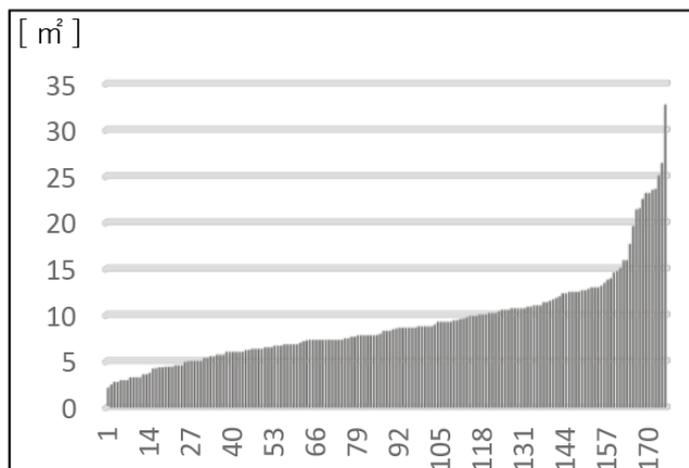
▲ワークスペースのタイプの調査結果

### 3.2. ワークスペースの床面積の算出

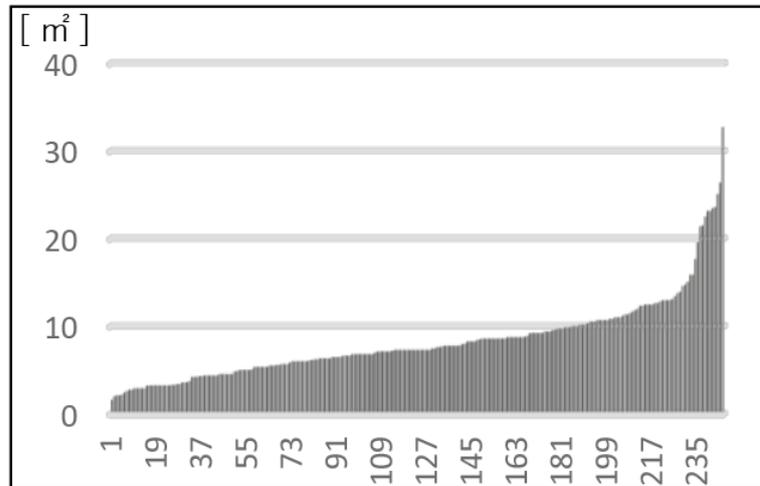
分析したワークスペースを面積が小さいものを横軸として並べたものを示す。図1は対象ワークスペースの内、[研究方法]で述べている面積計算を行うことができる条件を満たすもの（全245箇所）の中で、単一型ワークスペースに該当する床面積を示したものである。図2は、複合型ワークスペースの床面積を示したものであり、図3は全体のワークスペースの床面積を示したものである。これら図より、床面積1.6～16㎡の間で偏りが無いことが判明した。床面積が16㎡～のものは、図6より、居間に内包された複合型ワークスペースが集中しているためにこのような結果となったと考えられる。



▲図1 ワークスペースの床面積の算出結果（単一型 WS）



▲図2 ワークスペースの床面積の算出結果（複合型 WS）



▲図1 ワークスペースの床面積の算出結果（全体）

### 3.3. ワークスペースの隣接空間の調査

隣接空間の機能の調査結果を表1～3に示す。表より、居室、階段に隣接するワークスペースがそれぞれ49%、48%となり最も多かった。室であるワークスペースでは、居間と隣接しているワークスペースが45%と最も多かった。このことから、集中できる環境を整えながらも、家事や子育てと並行してワークスペースを利用することを考慮して計画されたものが多いと考えられる。註3)また、室でないワークスペースにおいては、階段、居室に隣接するワークスペースがそれぞれ46%、45%となり最も多かった。このことから、住戸内において家族が共同で利用する目的として、主な動線と一体で計画されており、かつ居室からのアクセス性を考慮した計画がされているものが多いと考えられる。註4)バルコニーが隣接空間であるワークスペースは、単一型、複合型に共通して、分析したワークスペースの全体数の割合に対して大きな差がないことがわかる。このことから、屋内と屋外とで環境の変化を容易に図ることができることを考慮して、長時間のワークスペースでの作業に対応していると考えられる。註5)

次に、ワークスペースの床面積と隣接空間の二項目に注目する。図4より、居室、階段、バルコニーが隣接空間であるワークスペースは、その床面積が大きいほど増加することが判明した。キッチンが隣接空間であるワークスペースは、その床面積が2～5㎡のものに集中していることが判明した。廊下が隣接空間であるワークスペースは、その床面積が4～10㎡のものに集中していることが判明した。

▼表1 隣接空間の調査結果（単一型WS）

隣接空間	該当数	割合(%)
居間（リビング、ダイニング）	33	45
居室（寝室等）	12	16
キッチン	12	16
エントランスホール	11	15
バルコニー	8	10
廊下	8	10
階段	5	6
クローゼット	5	6
洗面所	4	5
トイレ	1	1

【脚註】

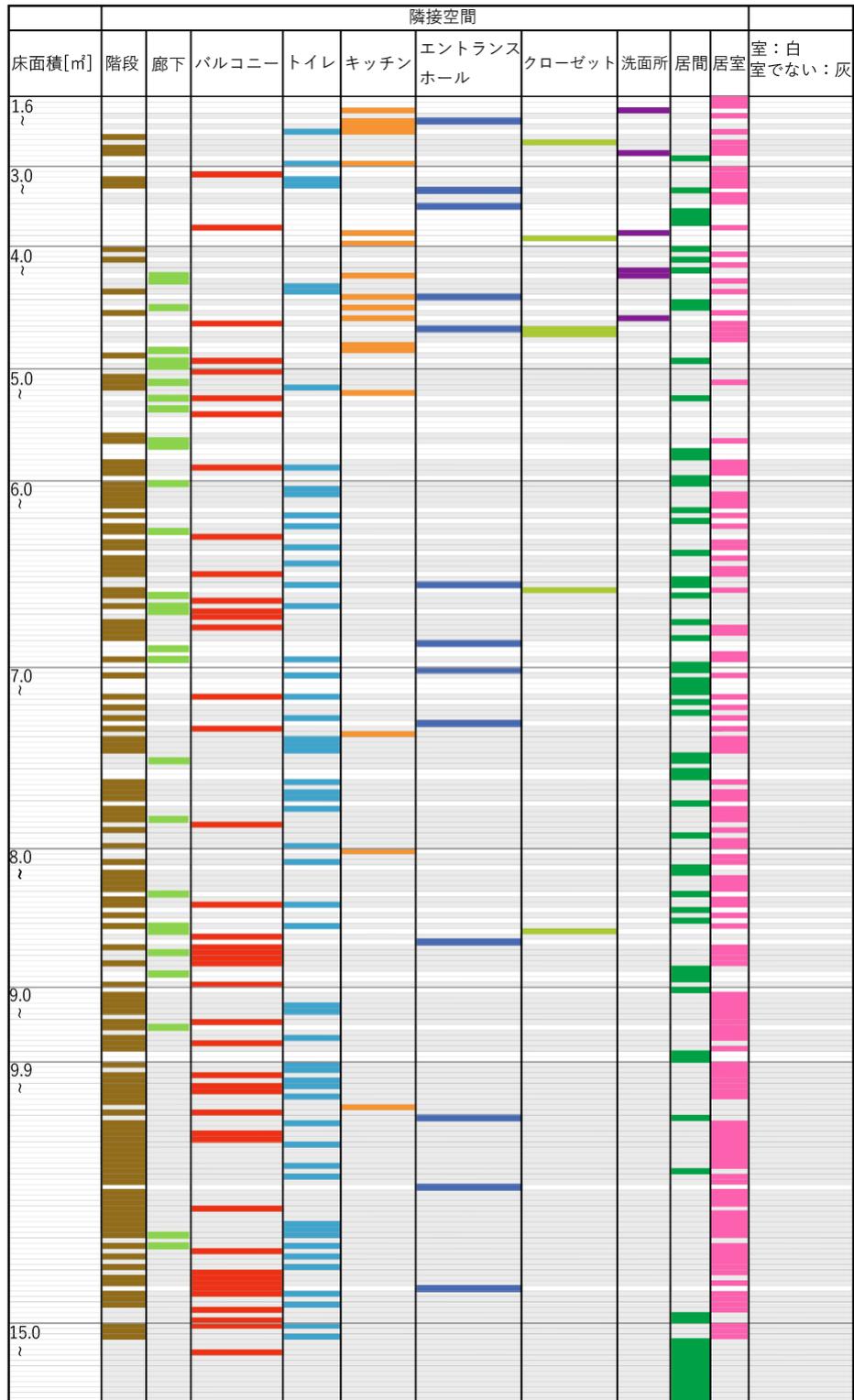
3) 参考文献3 4) 参考文献4 5) 参考文献5

▼表 2 隣接空間の調査結果（複合型 WS）

隣接空間	該当数	割合(%)
階段	117	46
居室（寝室等）	116	45
トイレ	53	21
バルコニー	36	14
居間(リビング、ダイニング)	31	12
廊下	21	8
キッチン	5	2
エントランスホール	2	1
クローゼット	2	1
洗面所	2	1

▼表 3 隣接空間の調査結果（全体）

隣接空間	該当数	割合(%)
居室（寝室等）	126	49
階段	122	48
居間（リビング、ダイニング）	65	25
トイレ	54	21
バルコニー	44	17
廊下	23	9
キッチン	16	6
エントランスホール	13	5
クローゼット	7	2
洗面所	6	2



▲図4 横軸をワークスペースに対する隣接空間、縦軸はワークスペースの室面積を昇順に示している。該当する隣接空間は着色しており、複合型ワークスペースに該当するものに着彩をした。

第4章  
結論

#### 4. 結論

単一型ワークスペースでは、居間と隣接しており、床面積が10㎡以下のものが多く見られることが判明した。室として集中できる環境を整えながらも、家事や子育てと並行して仕事を行うことを考慮して計画されたワークスペースが多いためこのような結果になったと考えられる。また、ワークスペースの床面積が大きくなるのに伴って、複合型ワークスペースが増加し、かつ居室と階段が隣接空間として計画されているものが多くなる傾向がある。このことから、面積を大きくとりつつ、階段、および各居室から直接アクセスでき、家族共同で利用されるワークスペースが多いことが判明した。さらにキッチンと隣接するワークスペースでは、家事動線を考慮して、複合型かつ面積の小さいものが多いことが判明した。

これら得られた結論より、住宅メーカーの戸建住宅におけるワークスペースの計画の傾向が明らかとなった。また、ワークスペースを含む戸建住宅設計を行う上での、ワークスペースの空間構成や配置計画について指針を示した。

## 参考文献

- 1) 総務省 (2021) 「ウィズコロナにおけるデジタル活用の実態と利用者意識の変化に関する調査研究」テレワークの利点
- 2) 宮原 真美子 他 「在宅テレワーク時のワークスペース環境に関する研究-緊急事態宣言下におけるアンケート調査から-」『日本建築学会計画系論文集』 2021年 86巻 790号 pp2541-2548
- 3) トヨタホーム 住宅カタログ 『SINCE with R (シンセ・ウィズアール』 p13 「家族の様子を感じながらも、オフィスと同じように集中して仕事に取り組みます。」、2. 住友林業 住宅カタログ 『New everyday』 p30 「隣接するバルコニーで気軽に気分転換。」
- 4) ミサワホーム 住宅カタログ 『PRIME SMART (プライム スマート)』 p7 「2階のホームコモンズはどの居室からも近いみんなの共有スペースです。」
- 5) 旭化成ホームズ 住宅カタログ 『one fitto』 p21 「仕事に区切りがつかいたらすぐ隣のベランダに出て一休み。

謝辭



本研究に際し、約半年という長い期間で、最後まで暖かくそして丁寧にご指導頂いた坂牛先生に深く感謝申し上げます。研究を行っていく中で、様々な難点が多くありましたが、それぞれの課題に対してどう解決していくのか、真摯に向き合ってくくださったおかげで、論文としてまとめることができました。

また、梗概の赤入れでは、誤字・脱字といった細かい部分から、言葉の定義の訂正まで、丁寧に添削していただいた平田さん、毎回のゼミで課題点に対して解決策を細かくご指導してくださった堀江さん、お時間のない中、zoom でアドバイスをしてくださった郭さん、そのほかにも優しく手を差し伸べてくれた先輩方にも感謝申し上げます。ありがとうございました。

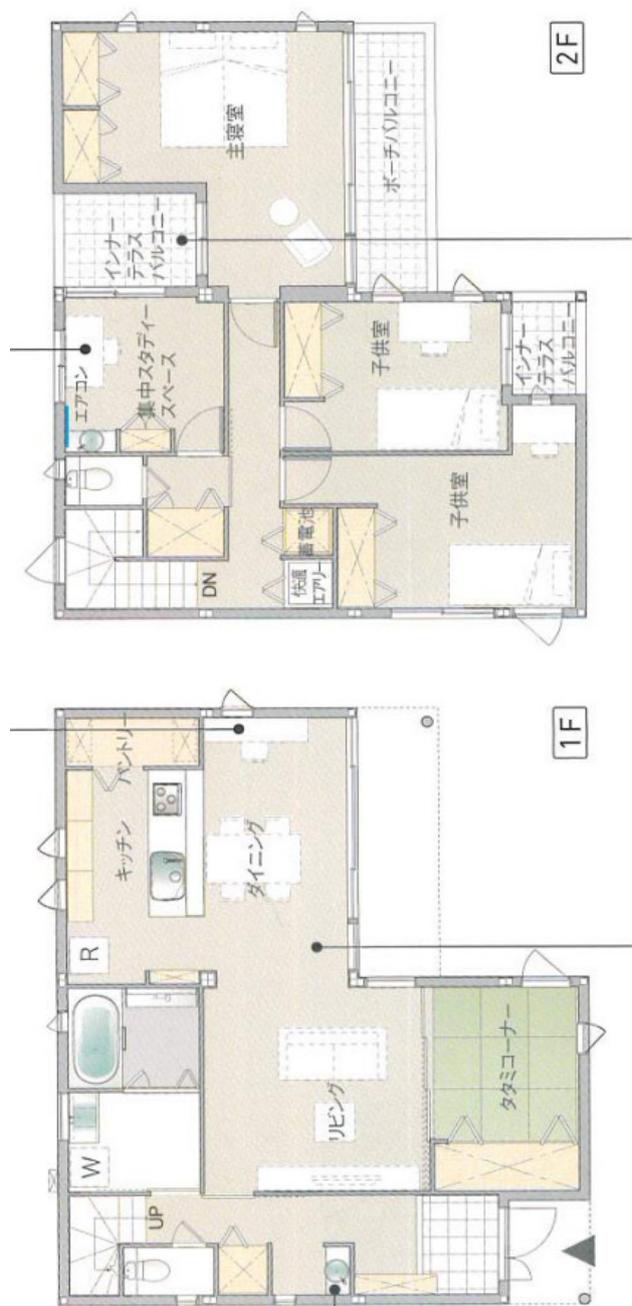
2022年11月15日 岡野麦穂

データシート

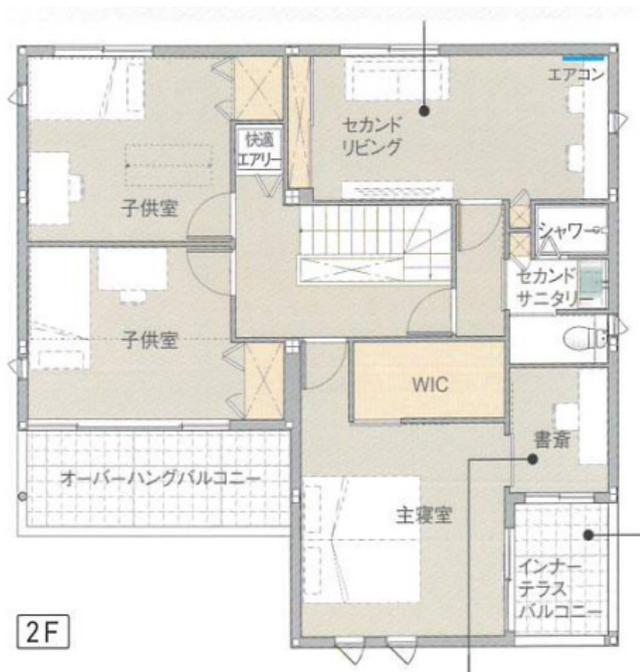


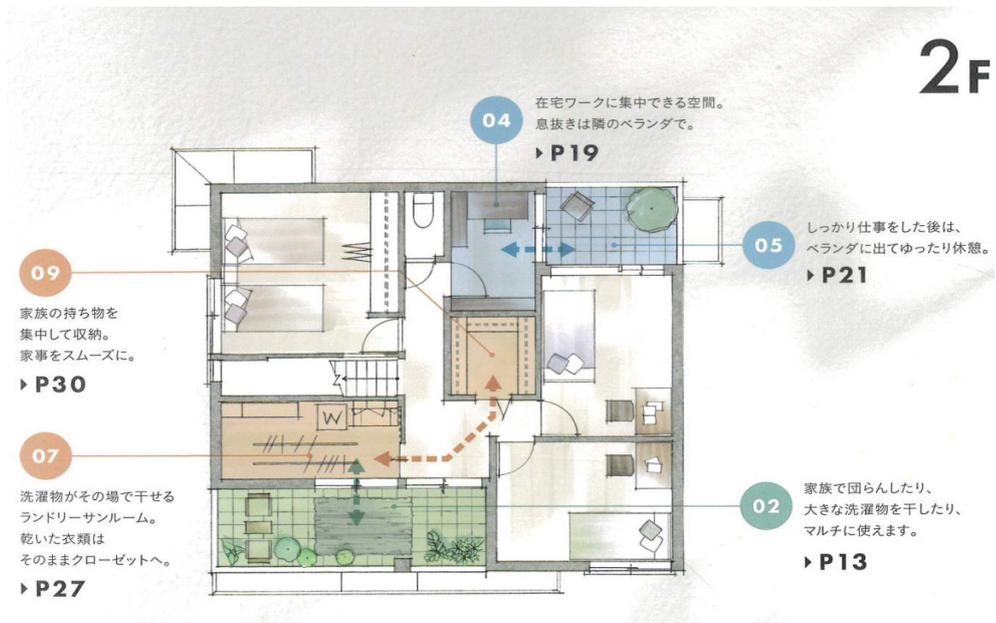
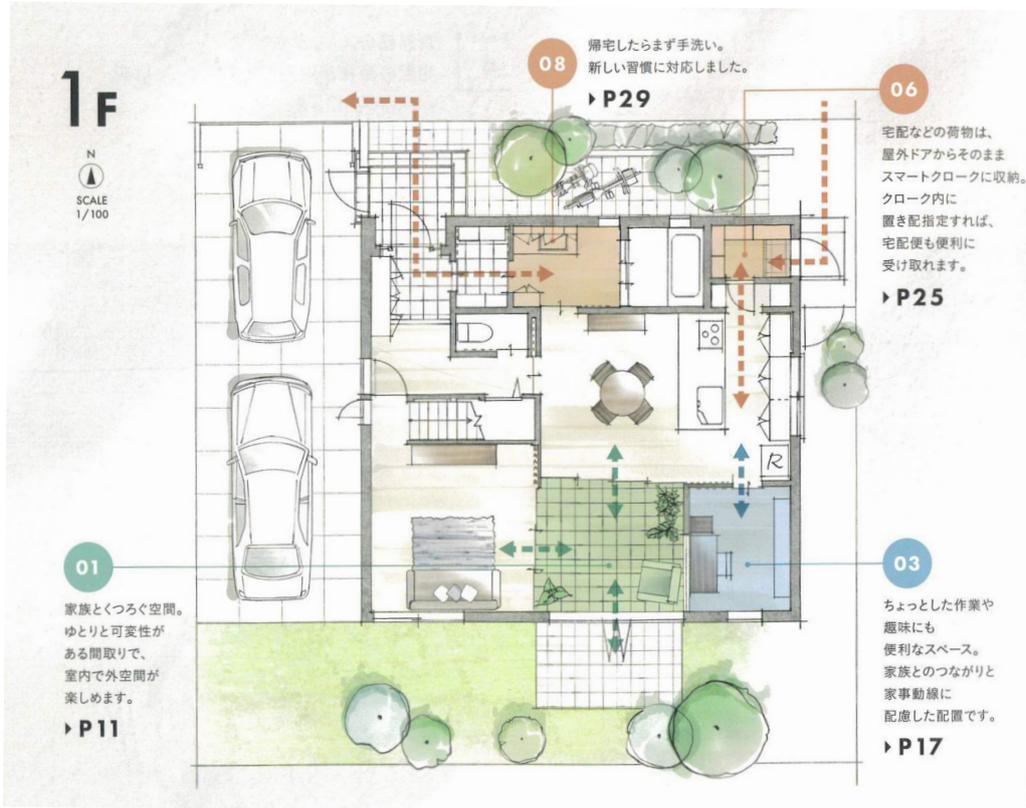
事例 NO. 1



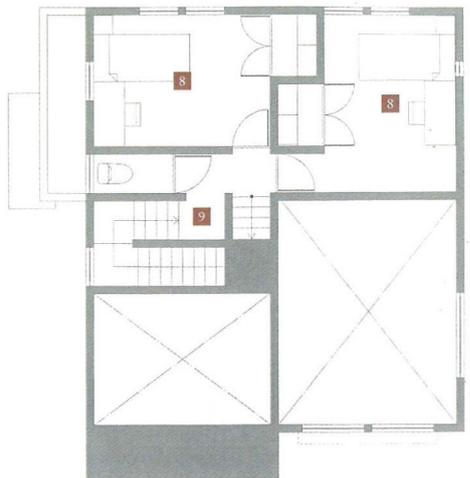
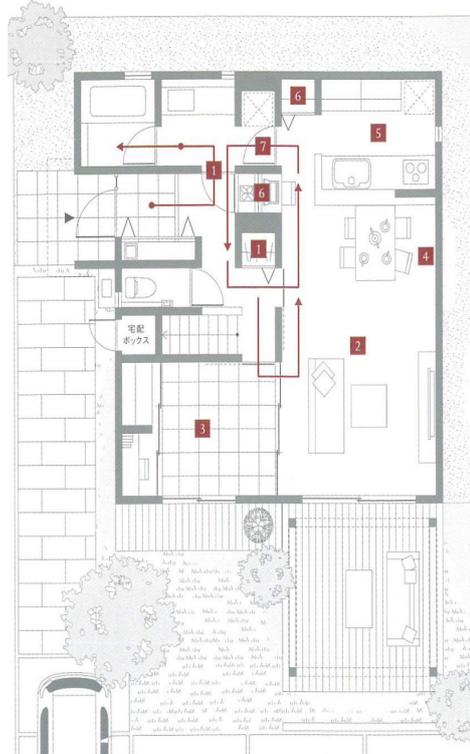


事例 NO. 3, 4

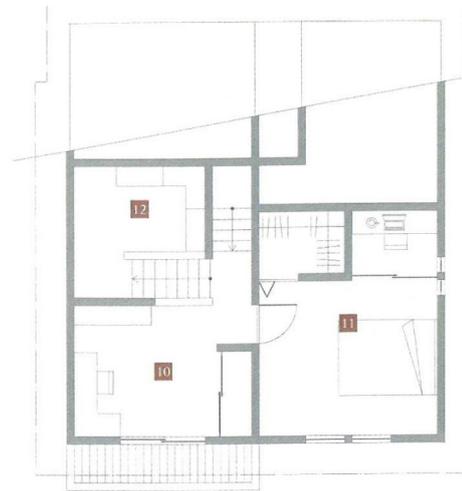




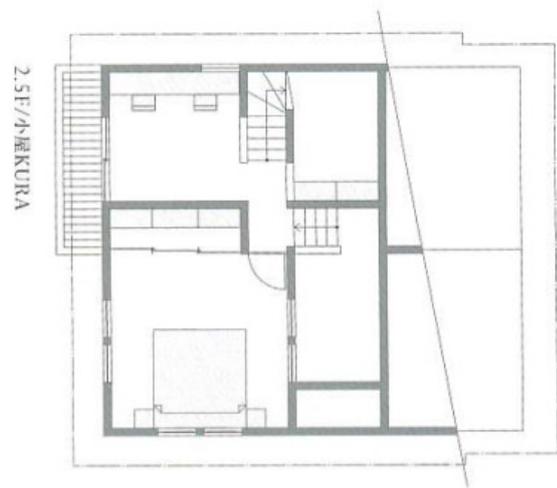
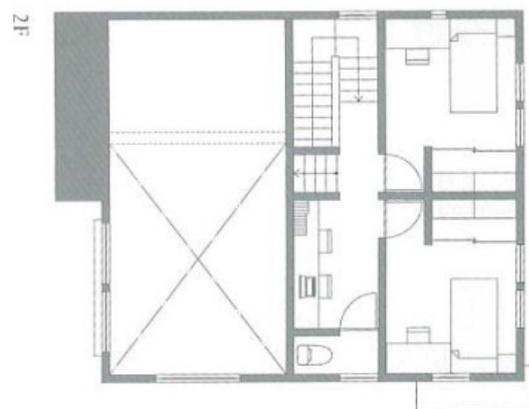
事例 NO. 7, 8, 9



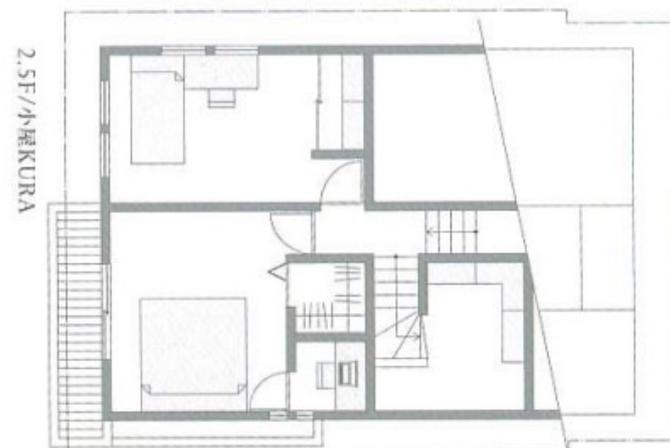
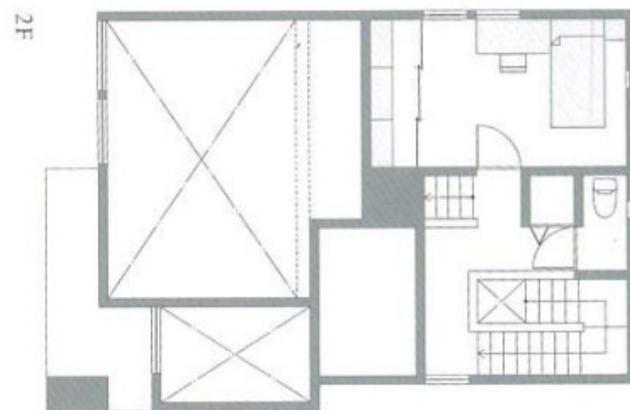
2F

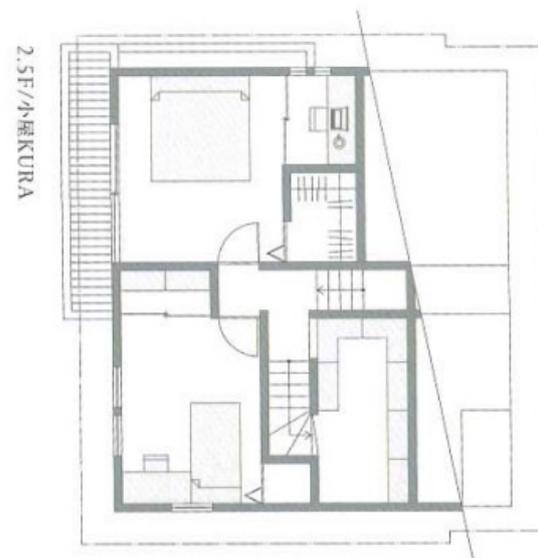
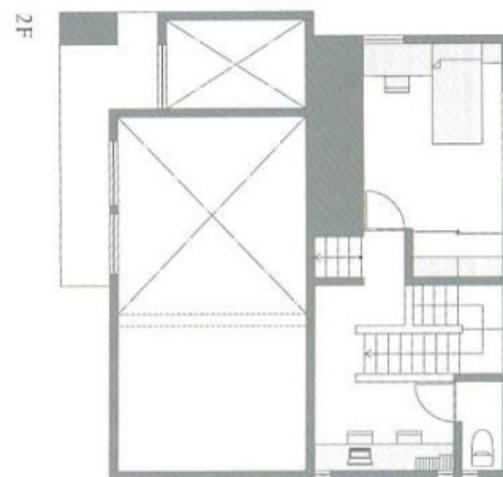


2.5F/小屋KURA

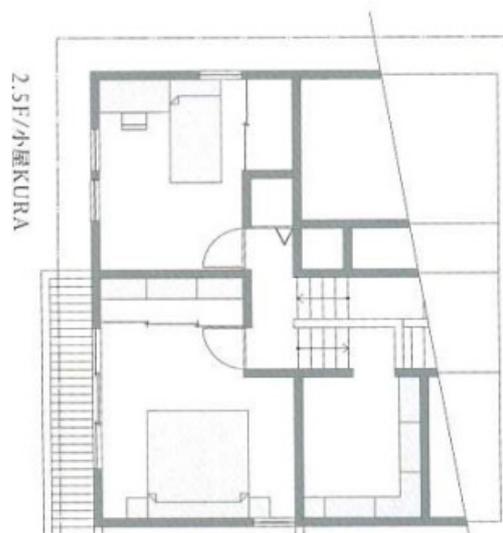
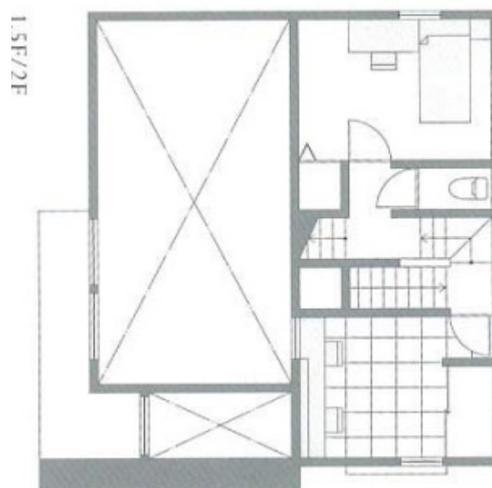


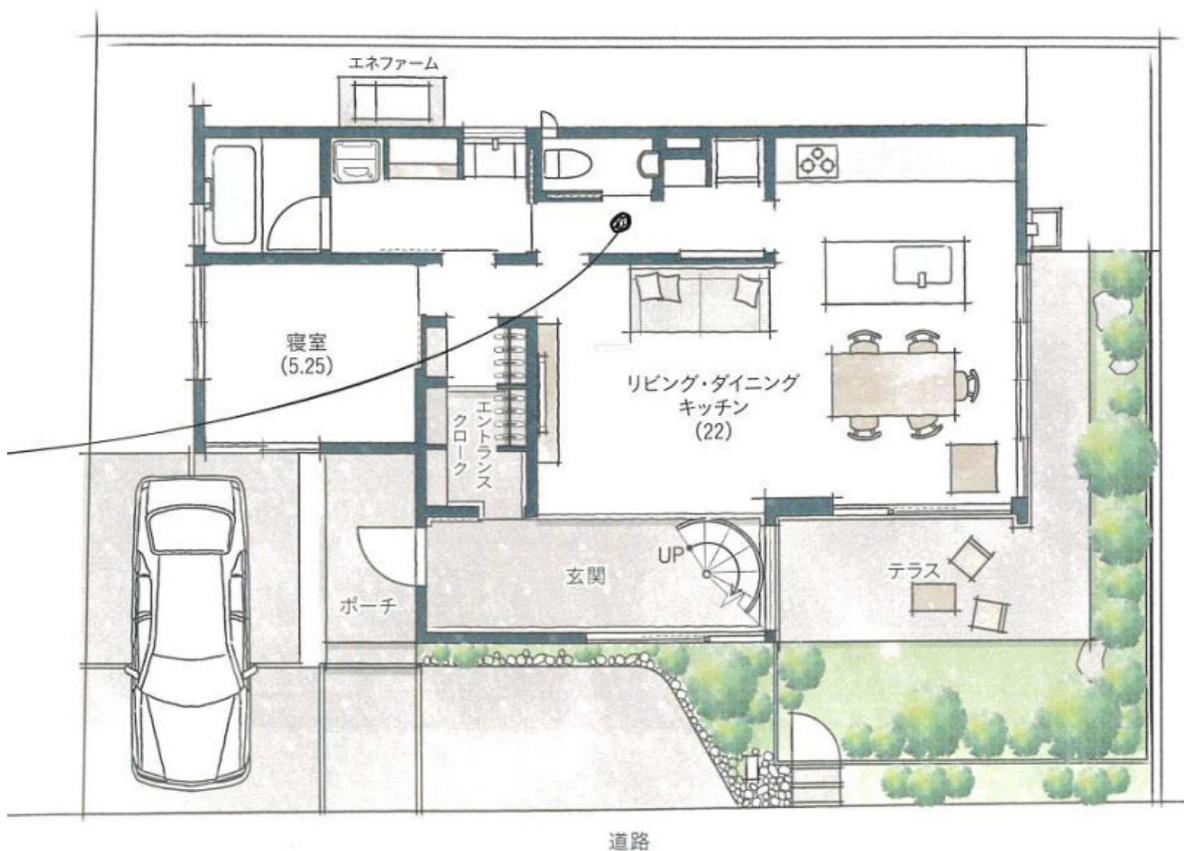
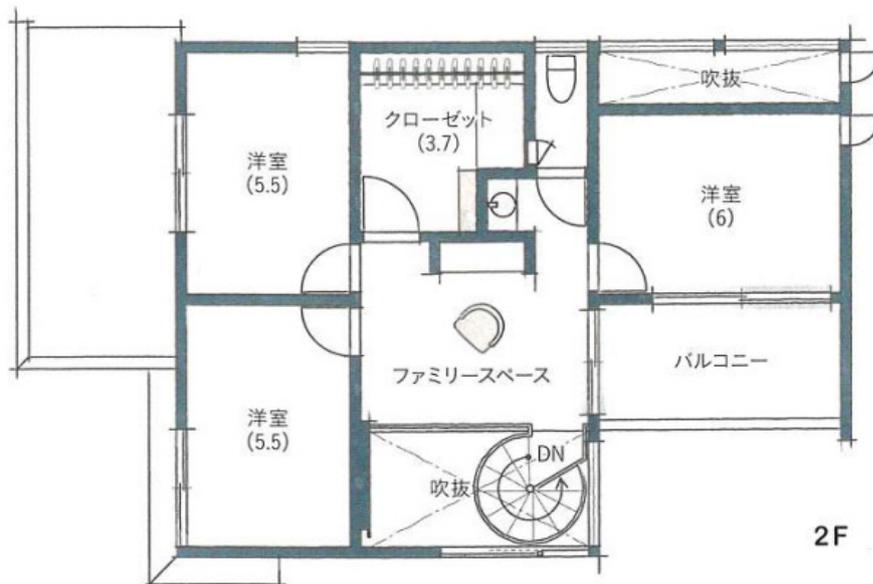
事例 NO. 13, 14, 15



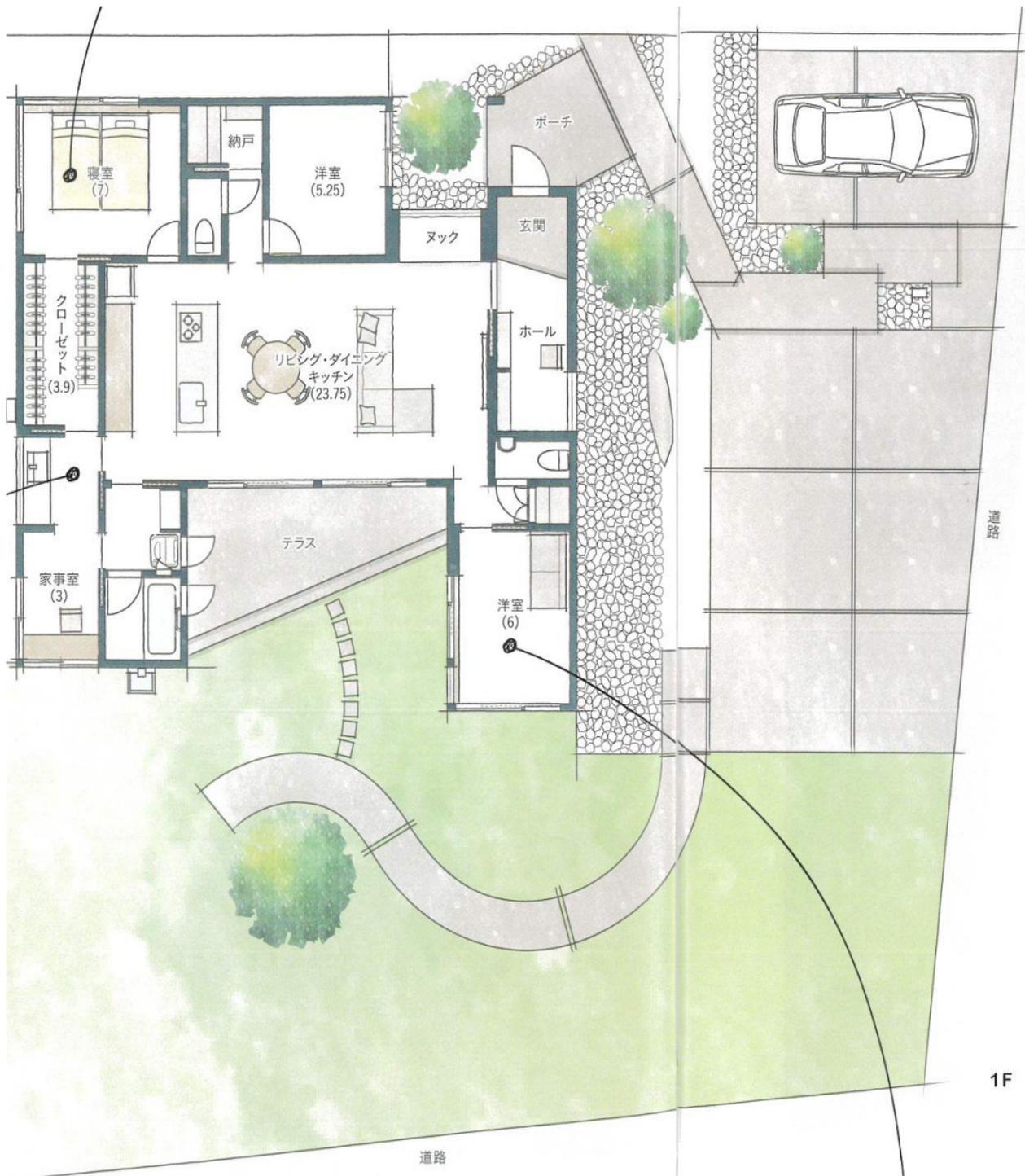


事例 NO. 18











Point !

寝室の隣に巣ごもり個室のワークスペース。日当たりと風通しの良いバルコニーへの出入りも可能でリフレッシュも自在。



Point !

吹き抜ける風と植栽の緑が、日々の疲れをリフレッシュしてくれます。



Point !

スリットシャッター  
小さな通気口のあるシャッター。爽やかな風や自然光が住まいに流れ込みます。スリットの開閉を調節することで通気口の大きさを変えることができます。



株式会社LIXIL

2F

Point !

玄関からスムーズに洗面台に行ける動線プラン。

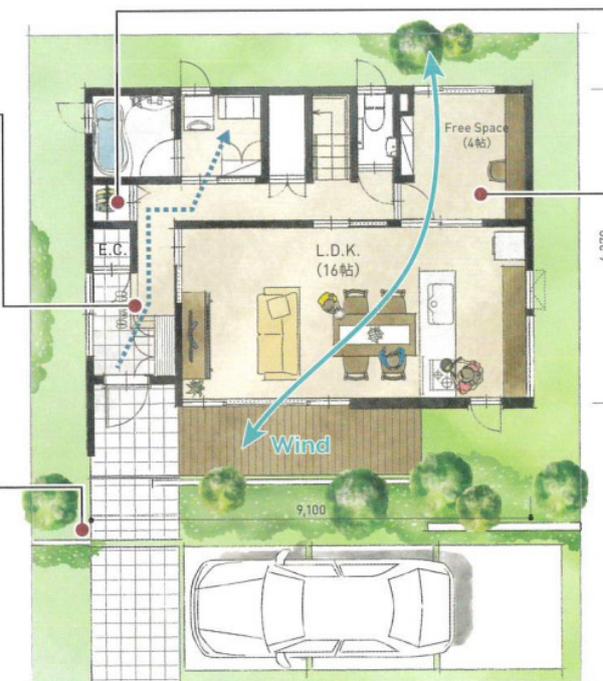


Point !

宅配BOX  
留守中やオンライン中も安心して宅配物を受け取れる宅配BOXを設置。配達員の方々の負担を軽減する新しい生活の必須アイテム。



パナソニック株式会社



Point !

ゆとりのある玄関周りの収納は備蓄にも最適。



Point !

L.D.K.のすぐそばにフリースペース。セカンドワークスペースや子供の遊び場に!



1F

Point! 

読書などの趣味や休息に最適なフリースペース。一人の時間をゆったりと楽しむことができます。

Point! 

階段手すり  
家族みんながふれる階段手すりは抗ウイルス塗装仕上げに。



2F

Point! 

子どもの気配を感じられるワークスペースは、南向きの明るく暖かい空間なので快適です。

Point! 

玄関から土間続きになっているワークスペース。靴を履くことで仕事モードへ、スイッチオン! 来客が多い方、ミニ工房やミニショップにも最適です。



1F

Point! 

引き戸を開けると、ワークスペースとL.D.K.がつながり、スムーズに行き来できます。

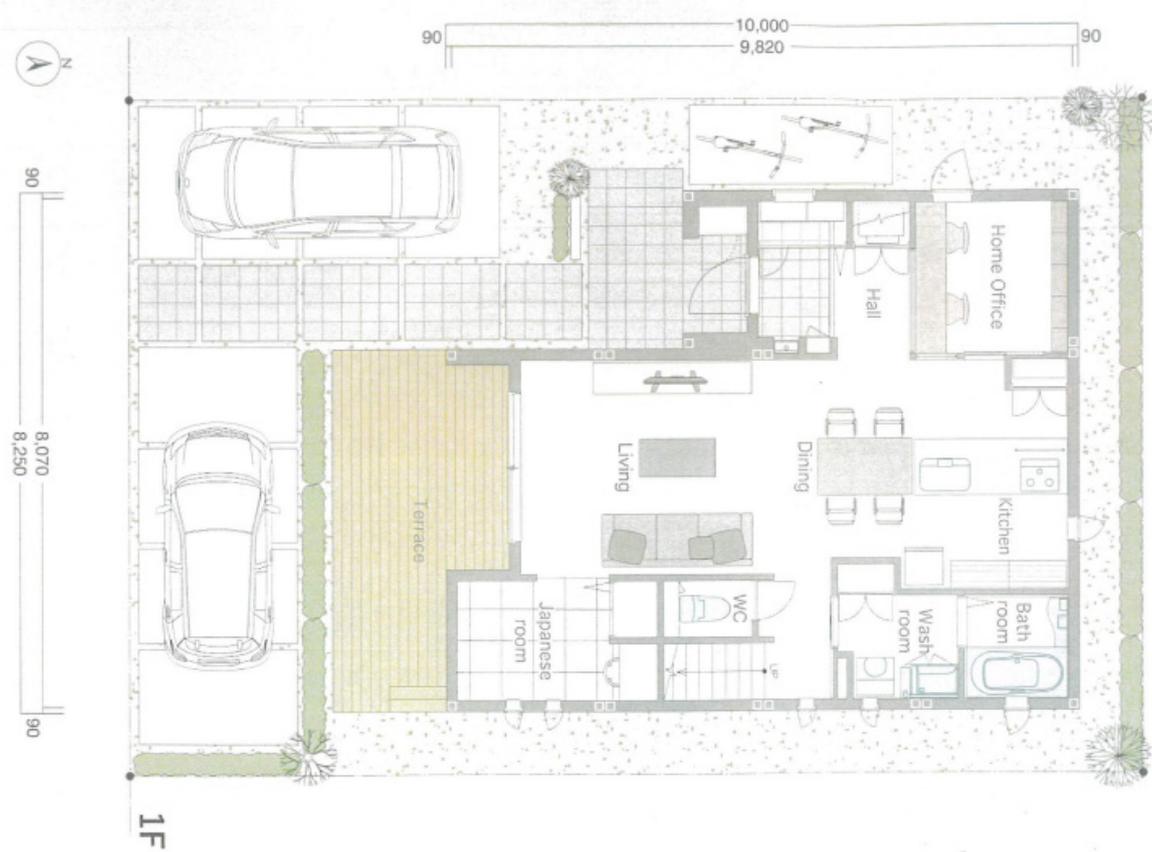
Point! 

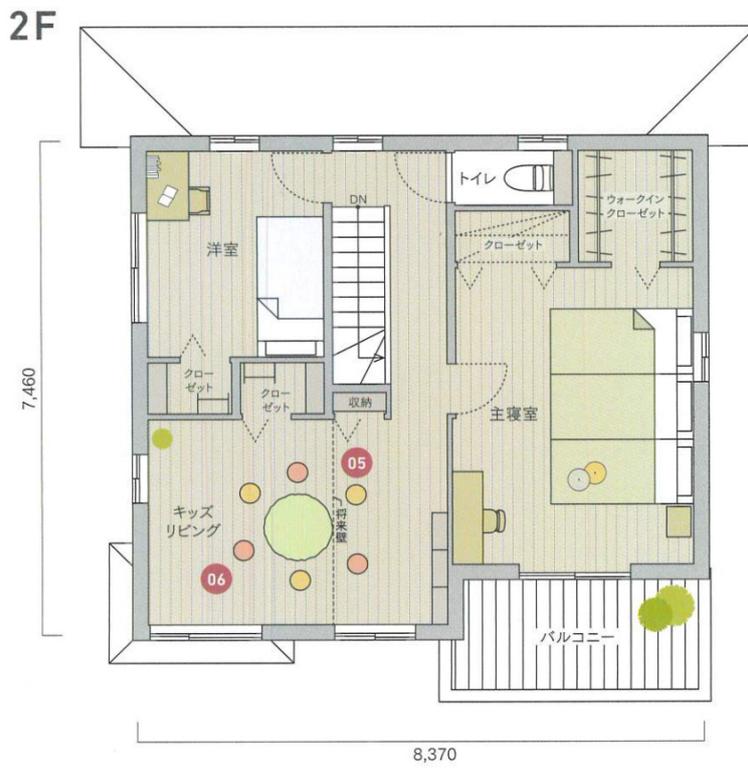
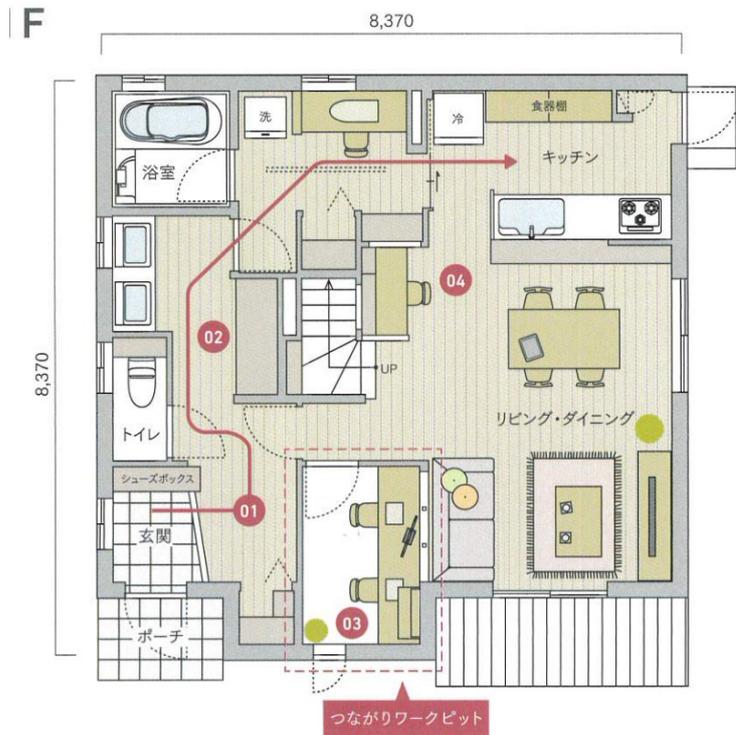
木質天井  
L.D.K.からワークスペースにかけて施した木質天井。暮らしの中に木の香りが広がります。





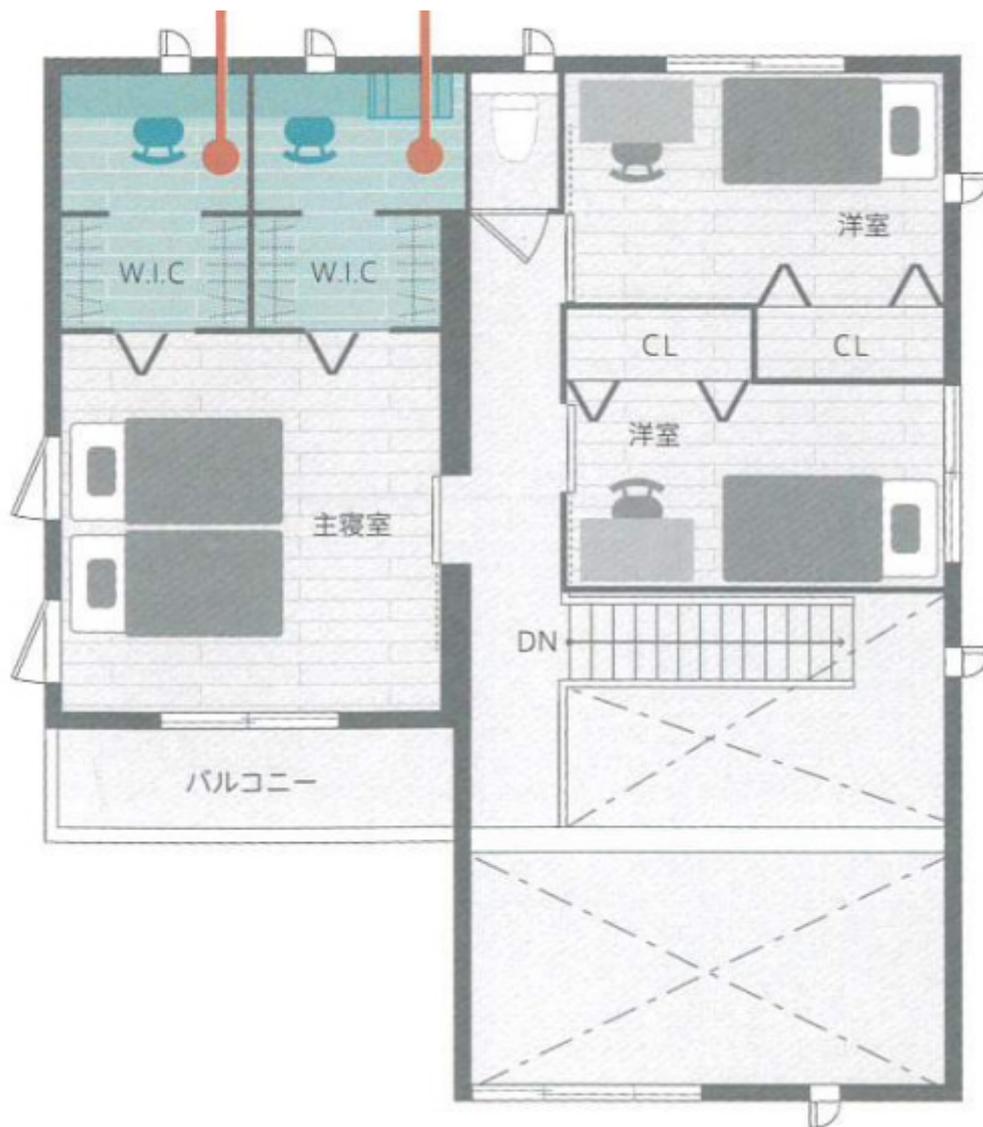


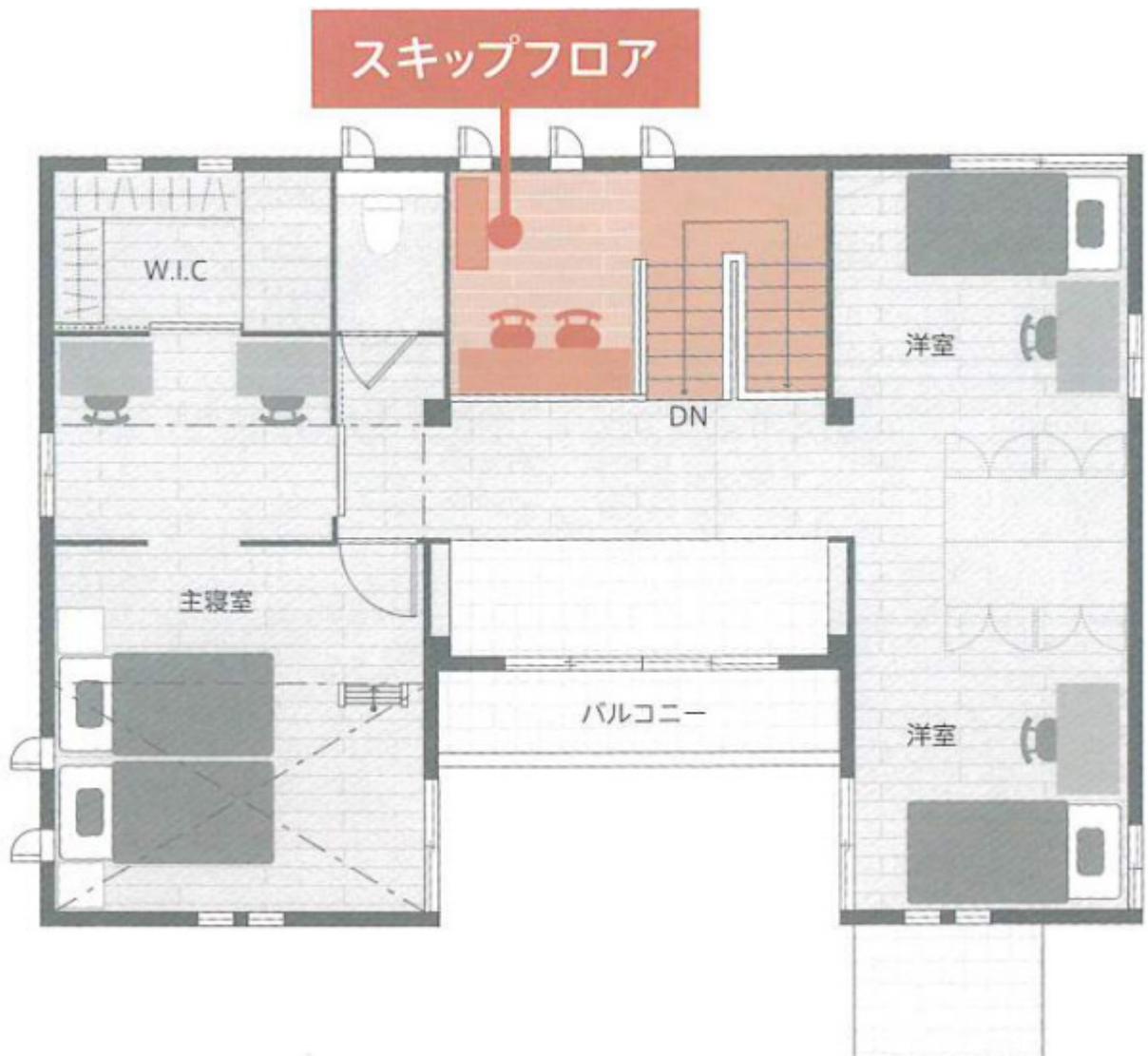


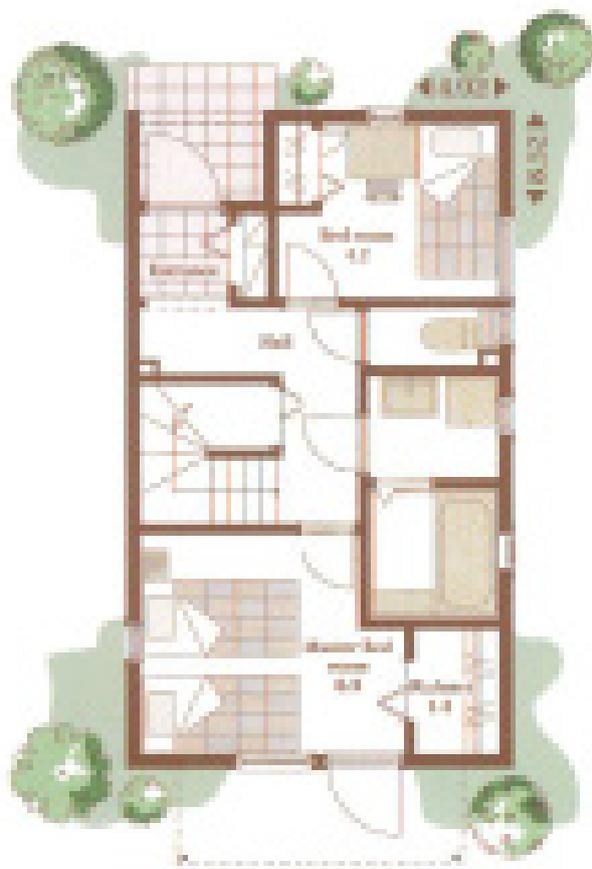












1st Floor



2nd Floor



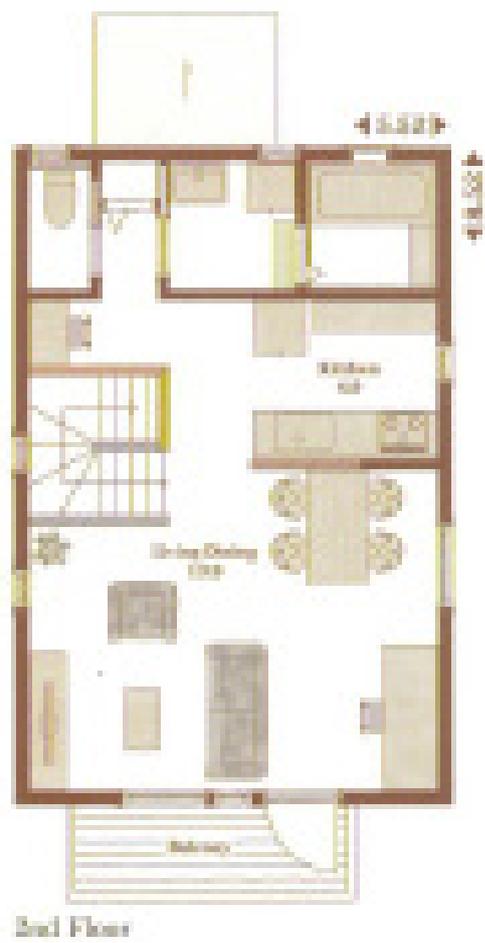




1st Floor



2nd Floor



事例 NO. 43





事例 NO. 45





1st Floor



2nd Floor







事例 NO. 51



1st Floor



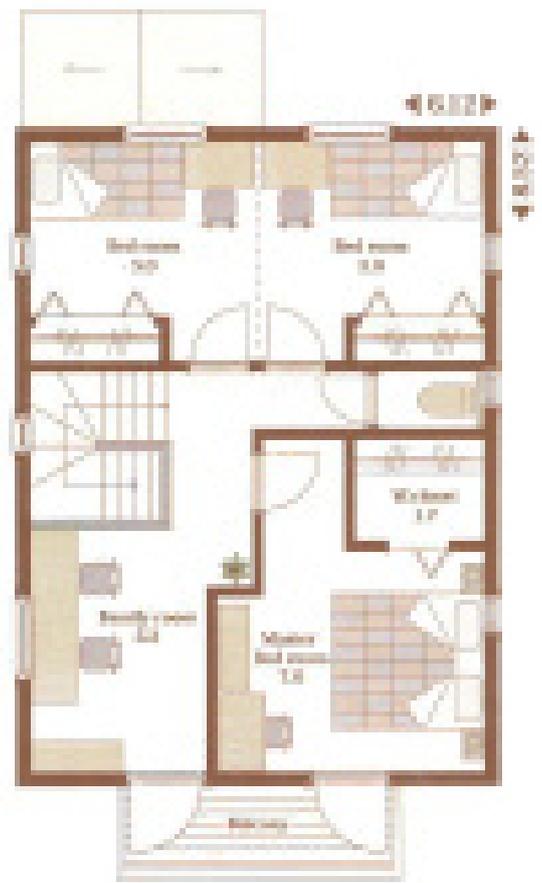
2nd Floor







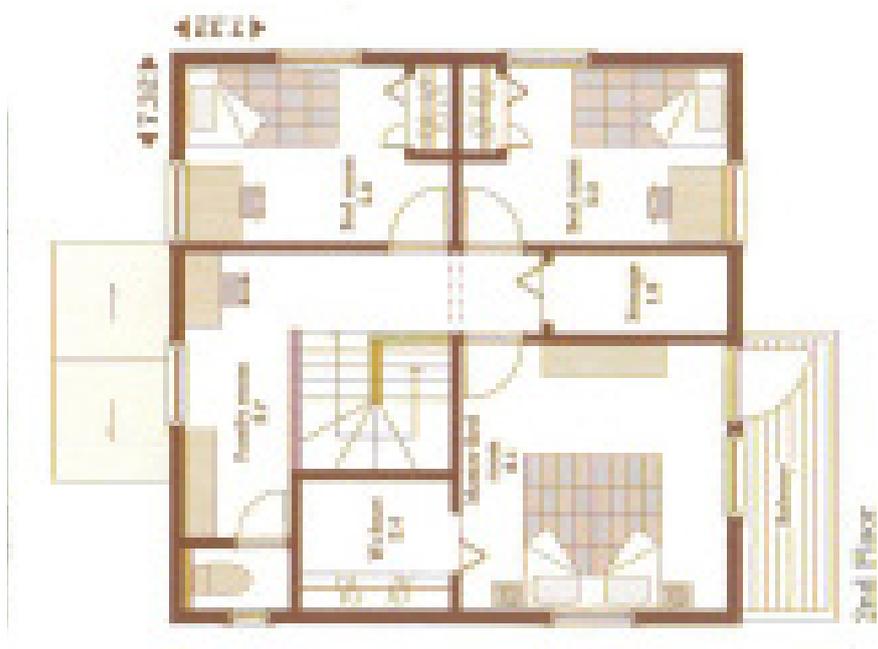
1st Floor



2nd Floor



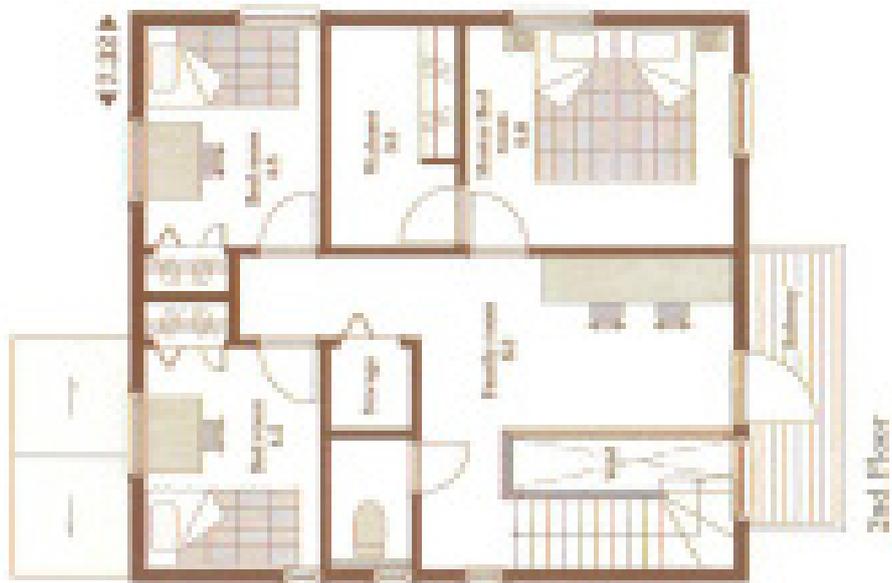
















1st Floor



2nd Floor



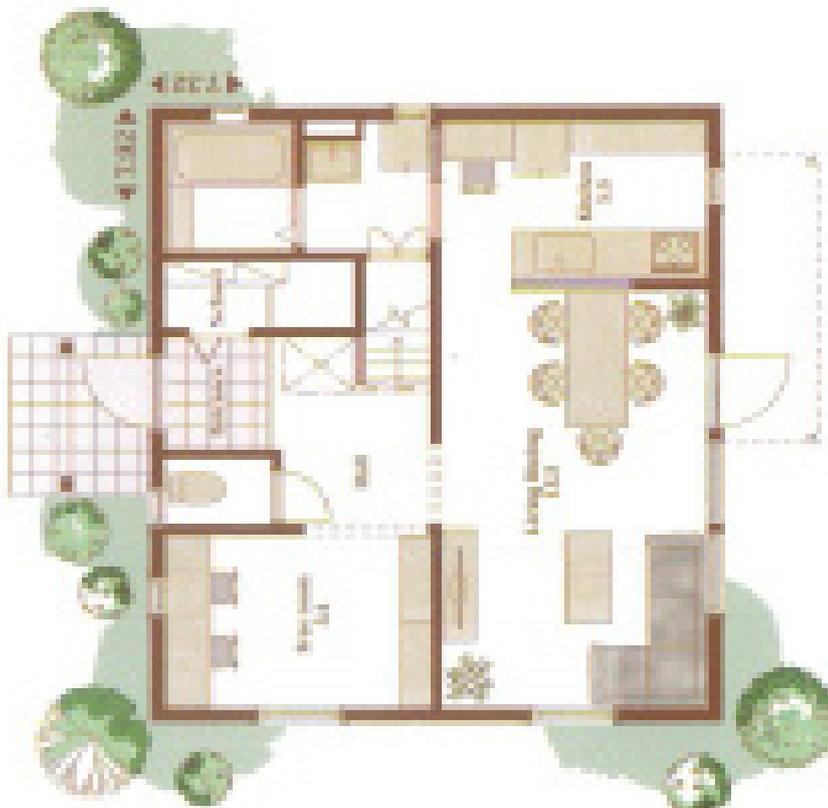
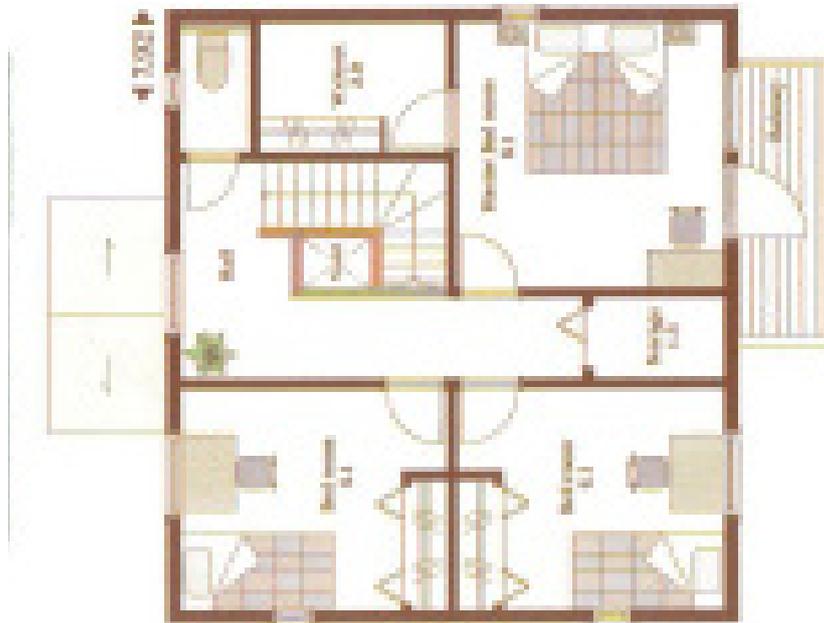








事例 NO. 72







事例 NO. 75





1st Floor



2nd Floor

事例 NO. 77



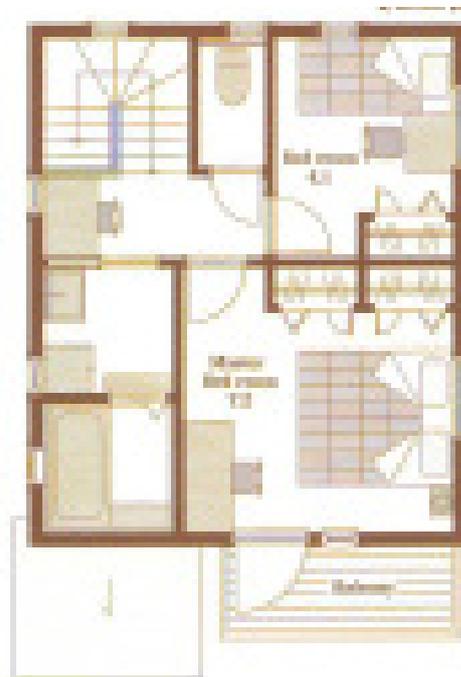


事例 NO. 79, 80





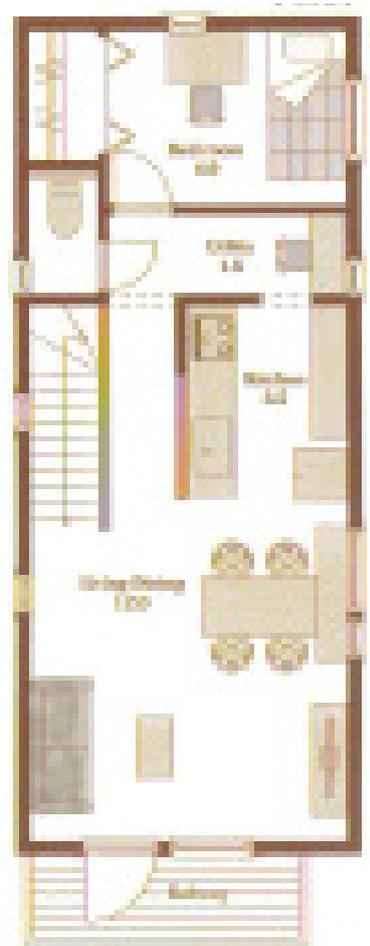
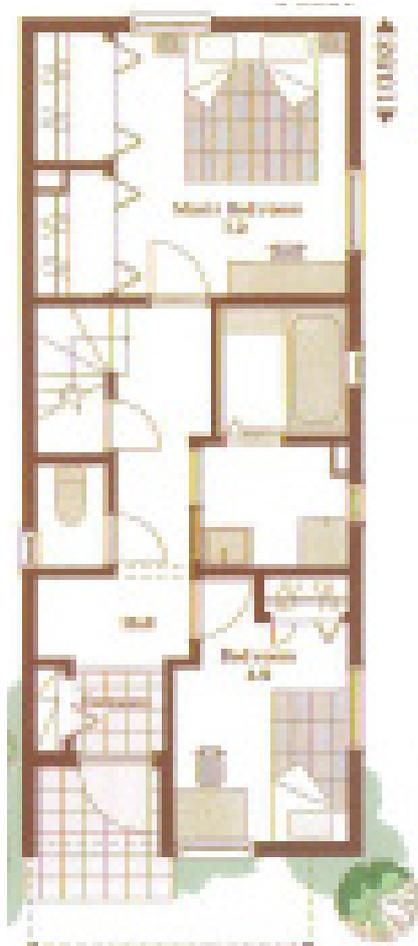
1st Floor



2nd Floor



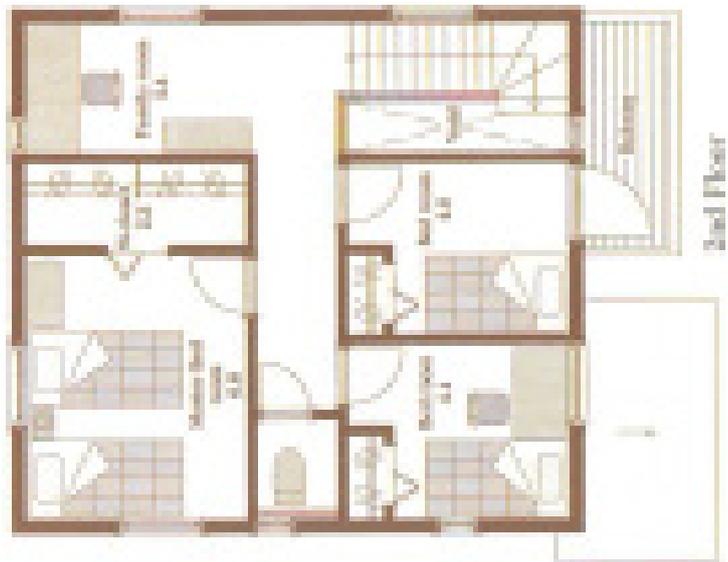






事例 NO. 86, 87











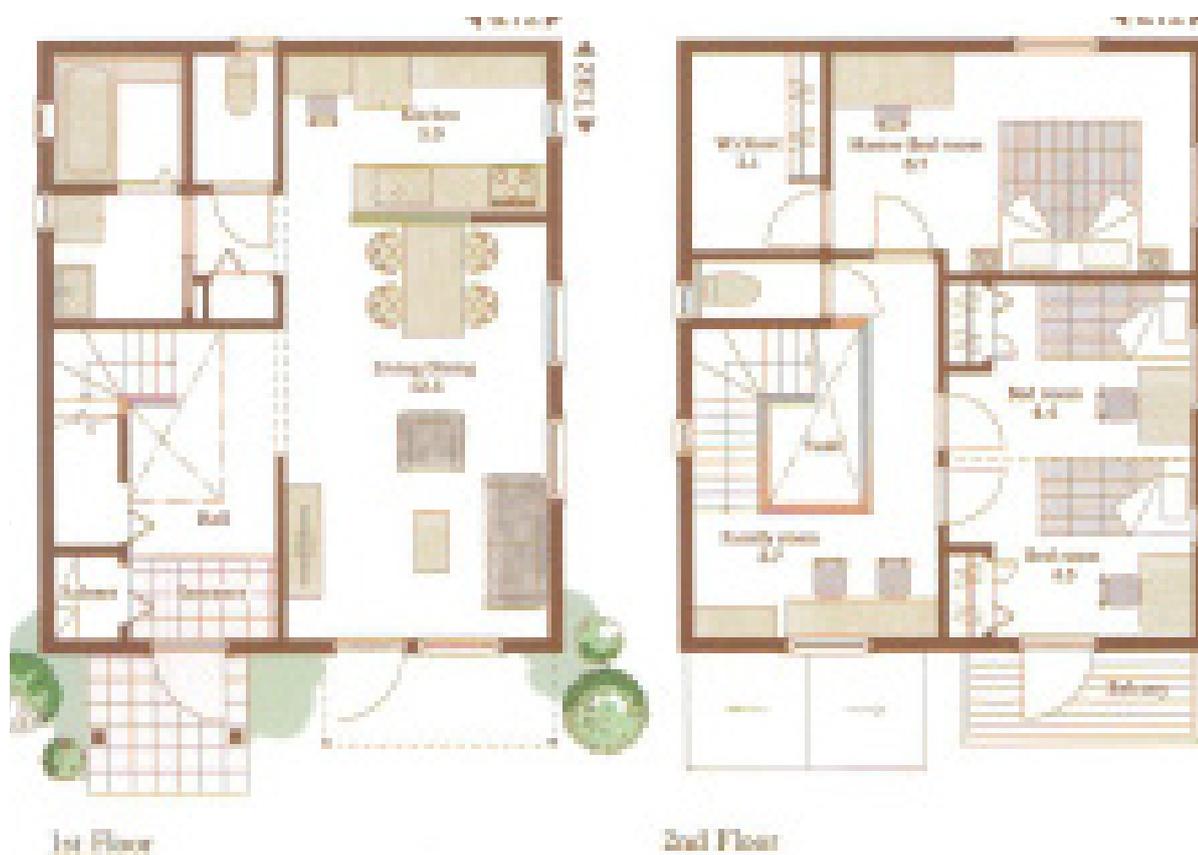


1st Floor



2nd Floor

















事例 NO. 102

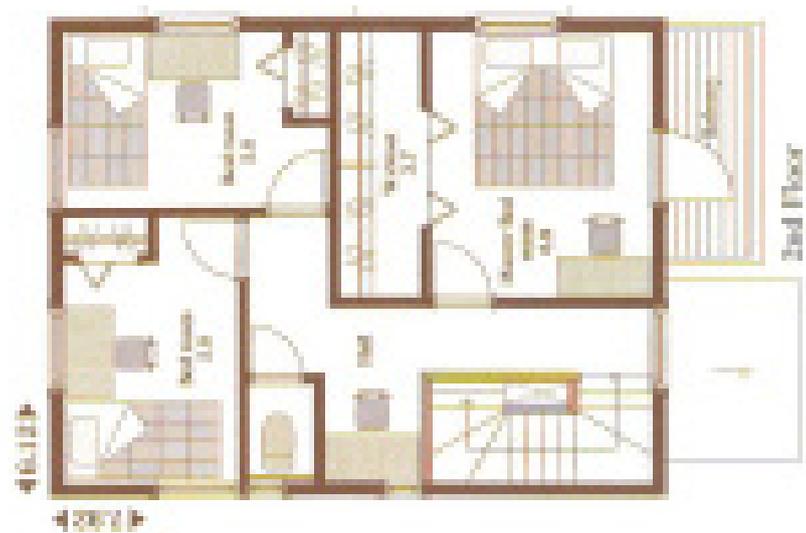


2nd Floor

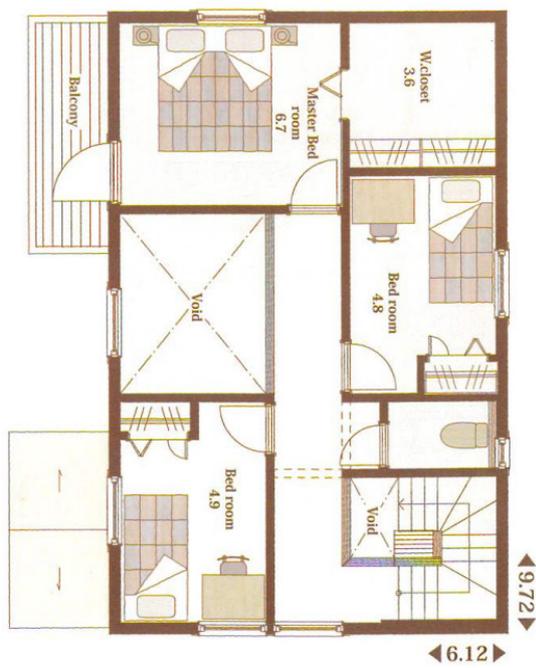


1st Floor







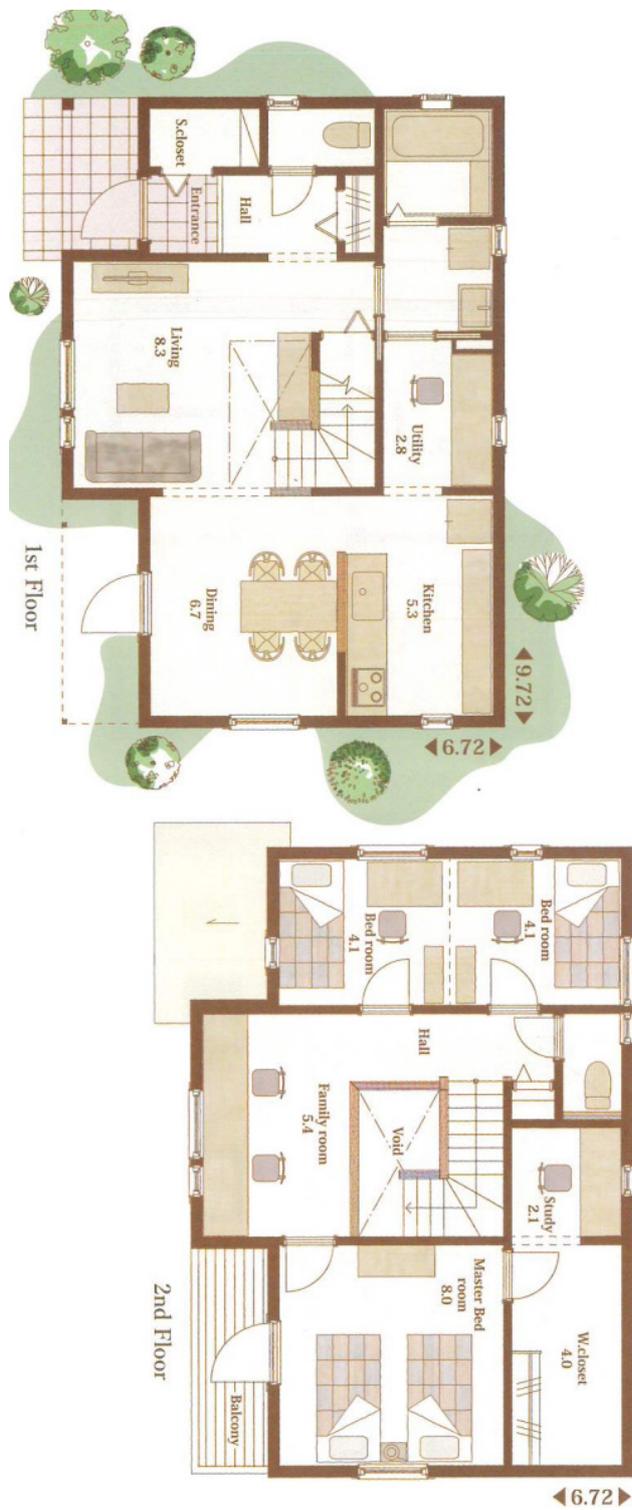








































205

事例 NO. 140, 141, 142



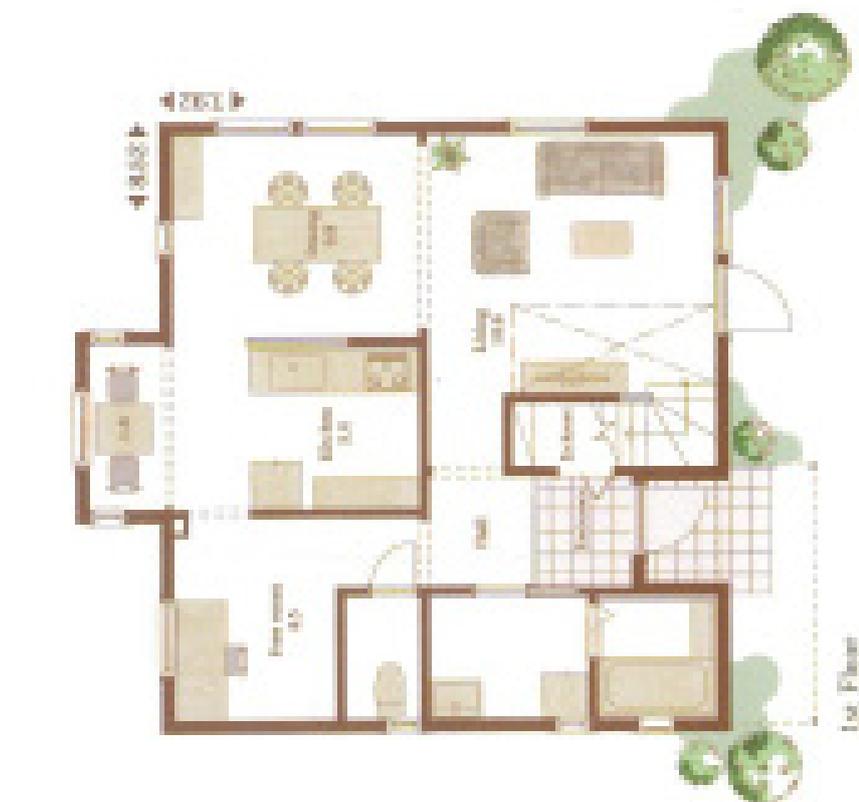






事例 NO. 147









事例 NO. 153

















2nd Floor



1st Floor



































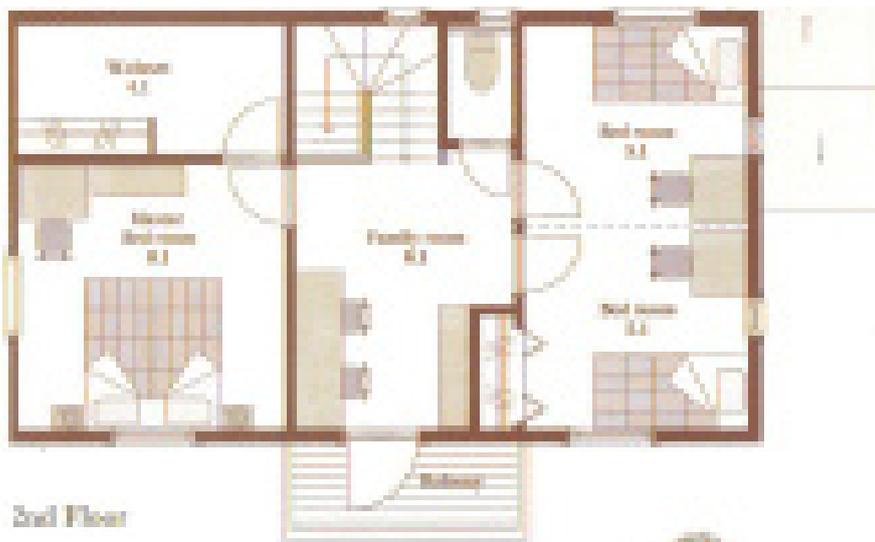


事例 NO. 182

4LDK+ファミリースーロー

建築面積 95.84㎡ (29.21坪)  
 延床面積 187.86㎡ (56.44坪)  
 総棟面積 20.27㎡ (6.12坪)  
 総戸面積 47.86㎡ (14.51坪)



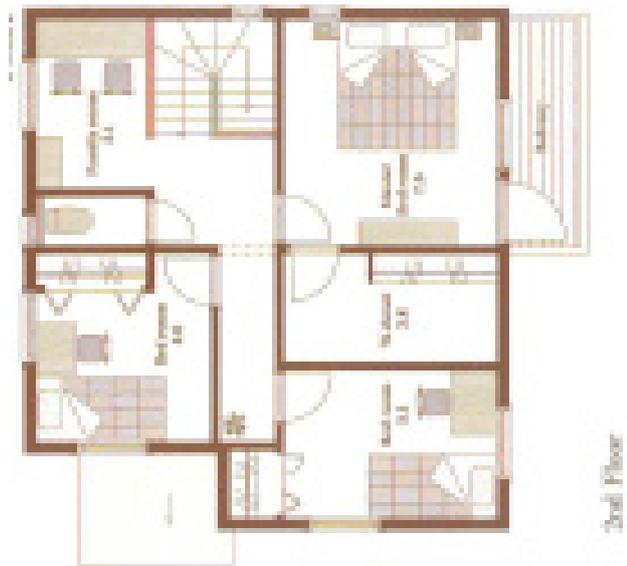








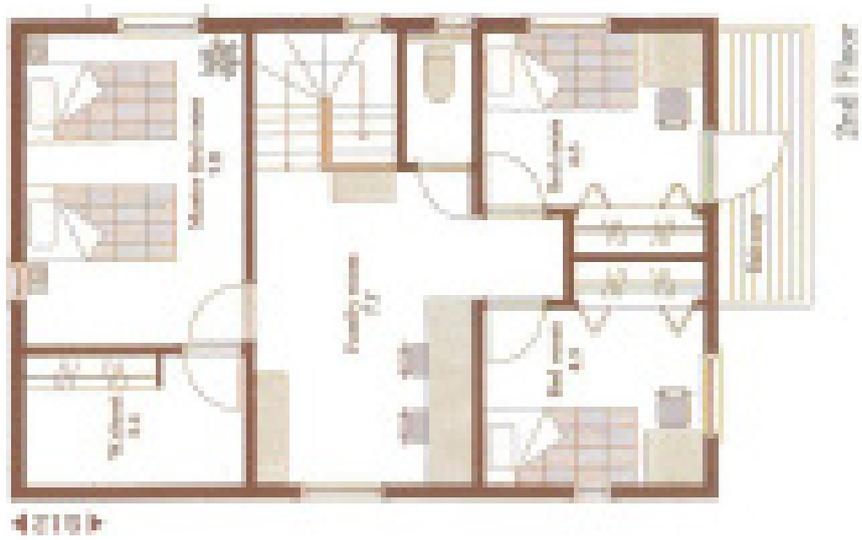






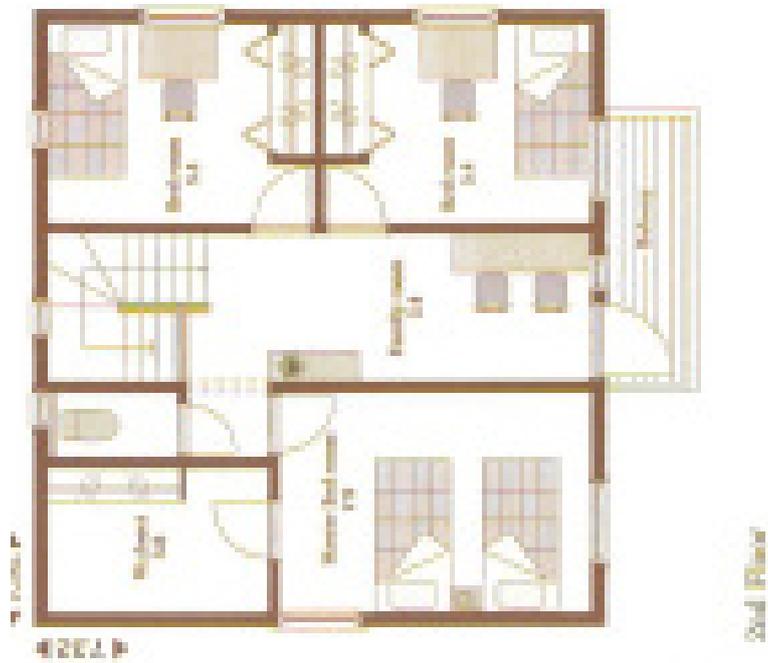












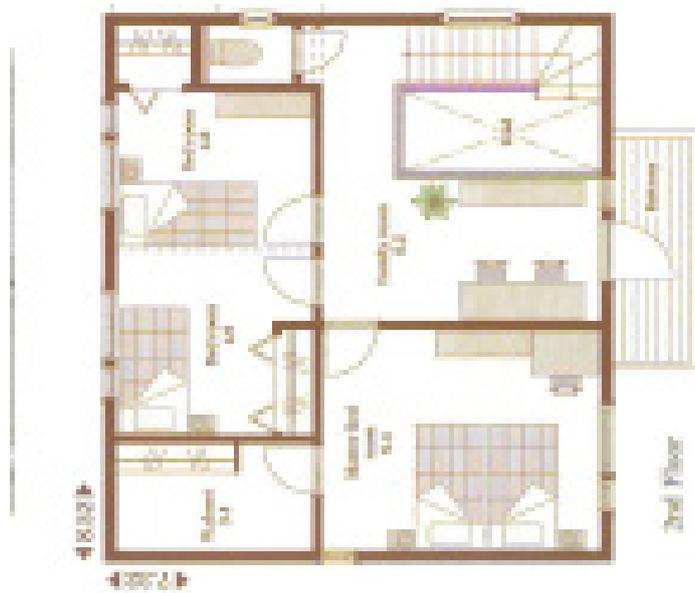


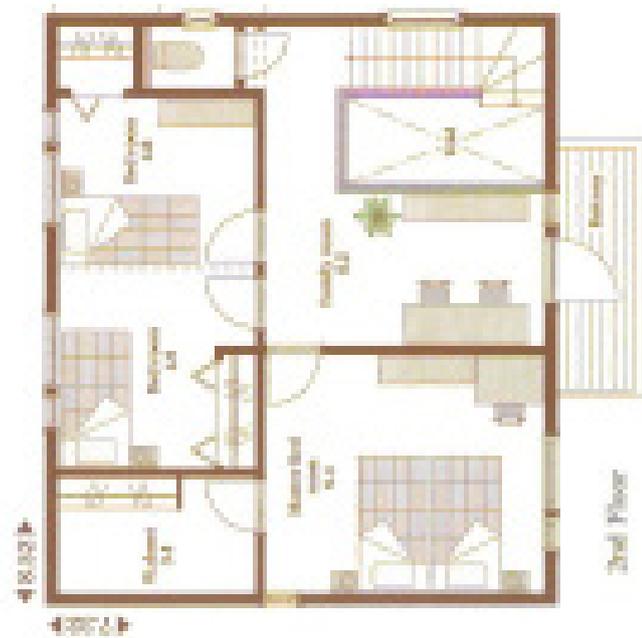












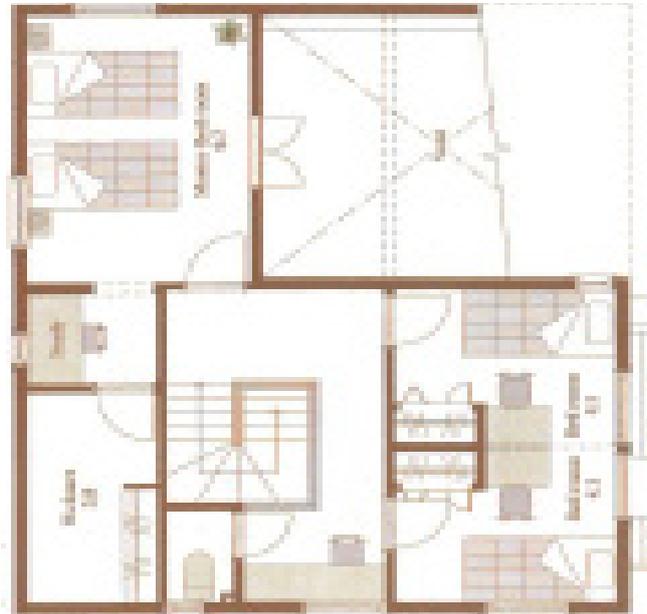


4 10.12









2F 2階



1F 1階













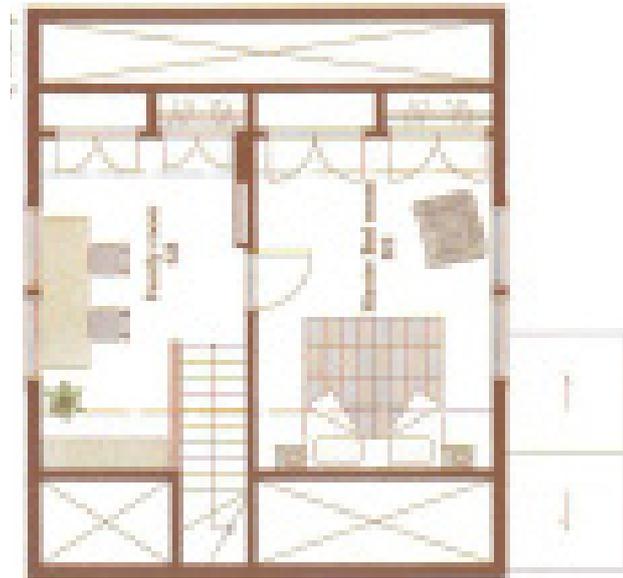










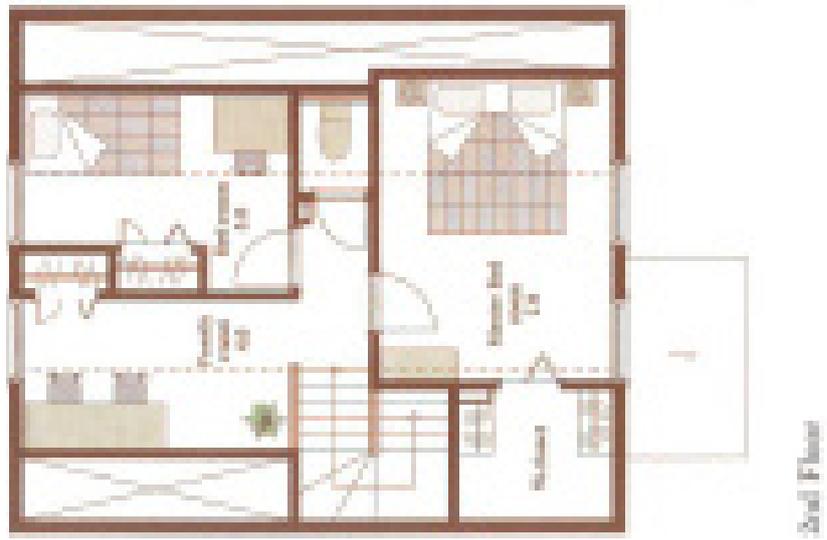


2nd Floor



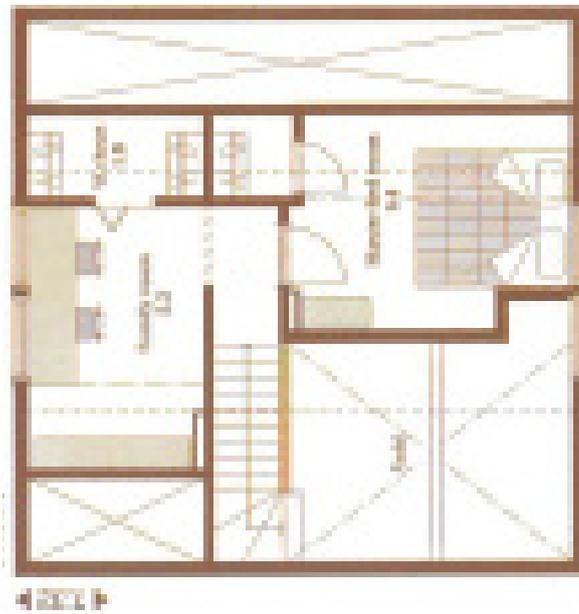
1st Floor







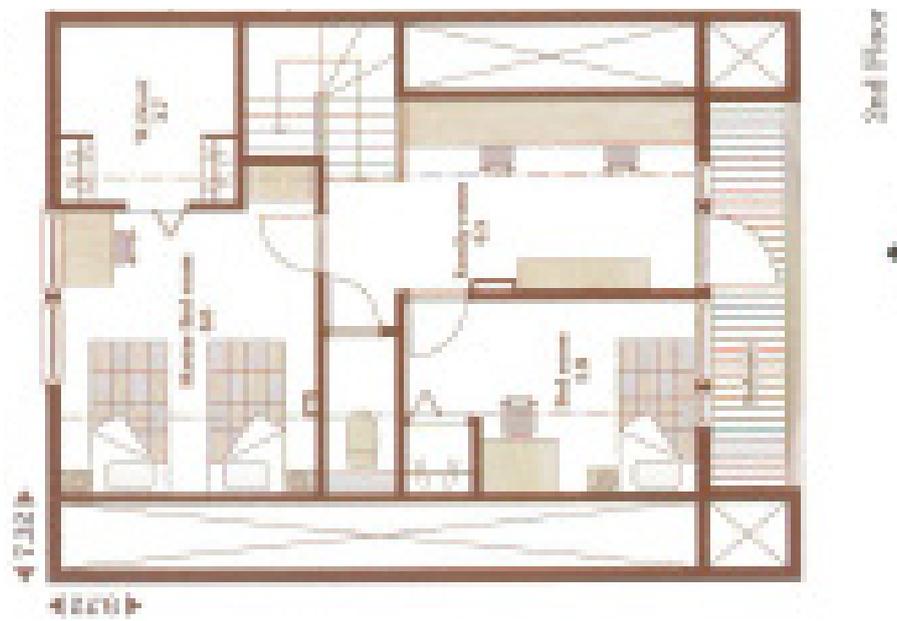
事例 NO. 233

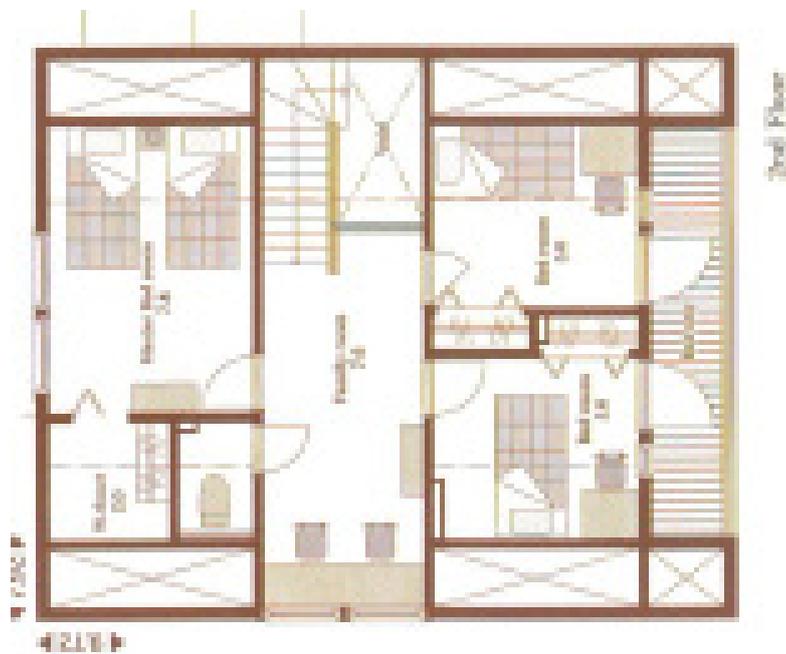




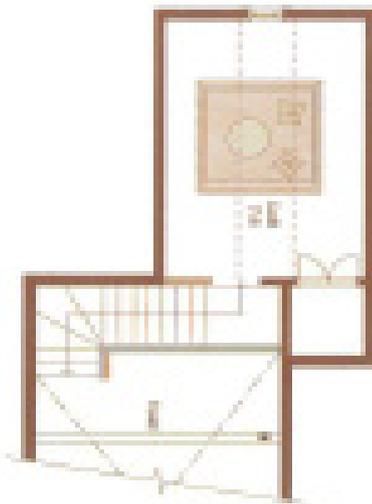
















事例 NO. 243





事例 NO. 245

















1st Floor

